

ガジュマル13m、ホルトノキ12.67m、リュウキュウハリギリ11.50m、シマタゴ10.17m、リュウキュウコクタン10m、センダン10m等が10mをこす高木層を形成しているが、この樹種は下木層と中木層には殆んど出現しない。また、平均本数密度においてはアカギ0.20%、ホンバムクトヌビワ0.10%、シマトネリコ0.41%、ガジュマル0.10%、ホルトノキ0.61%、シマタゴ0.61%、リュウキュウコクタン0.10%、センダン0.10%という低い出現度である。なお、リュウキュウガキはこの構成表でも明らかなように、本数率で20.99%という出現密度の高い樹種ではあるが、平均樹高と平均胸高直径においては前記樹種より低率を示している。これは他の樹種に比較し、下木層に密度の高い出現を示し、平均値が小さくなったものである。

第5-4表

本部半島石灰岩質母材における照葉林構成表

樹種名	ha当り本数	本数率	平均樹高	平均胸高直径	胸高直径率
	(本)	(%)	(m)	(cm)	(%)
リュウキュウガキ	2,070	20.99	3.02	3.07	13.48
シンシアクチ	1,270	12.88	3.08	3.90	10.04
ルリミノキ	990	10.05	1.89	1.22	2.42
グミモドキ	760	7.71	1.32	1.13	1.72
ボチョウジ	710	7.20	2.00	2.21	3.13
クスノハカエデ	600	6.09	5.33	8.02	9.61
アカテツ	230	2.33	2.22	1.91	0.88
オオシイバモチ	210	2.13	4.95	8.48	3.55
ハマビワ	200	2.03	3.00	3.25	1.30
ヤブニッケイ	190	1.93	5.63	8.58	3.25
リュウキュウハリギリ	180	1.83	11.50	20.78	7.47
フクギ	170	1.72	3.82	5.12	1.74
イスノキ	170	1.72	3.06	3.00	1.02
イヌガシ	150	1.52	6.60	9.20	2.75
ゲッキツ	150	1.52	5.13	8.93	2.68
モクダチバナ	150	1.52	4.40	6.00	1.80
クスノハガシワ	150	1.52	3.60	3.60	1.08
トベラ	130	1.32	4.92	6.62	1.72
タシロルリミノキ	120	1.22	2.25	1.69	0.38
ハゼノキ	110	1.12	9.00	17.82	3.91
クチナシ	110	1.12	3.09	3.73	0.82
ショウベンノキ	110	1.12	2.91	2.82	0.62
ナガミボチョウジ	110	1.12	2.35	2.64	0.58
キングイヌビワ	70	0.71	8.29	15.86	2.22

樹 種 名	ha 当り 本 数	本 数 率	平 均 樹 高	平 均 胸高直径	胸 高 直 径 率
	(本)	(%)	(m)	(cm)	(%)
ギョクシンカ	70	0.71	1.86	1.57	0.22
ホルトノキ	60	0.61	12.67	35.50	4.25
シマタゴ	60	0.61	10.17	22.50	2.69
オキナワキョウチクトウ	50	0.51	7.00	10.00	1.00
タ ブ	50	0.51	3.40	3.20	0.32
シマトネリコ	40	0.41	13.75	33.75	2.69
フカノキ	40	0.41	9.00	18.50	1.48
シロダモ	40	0.41	6.75	9.25	0.74
リュウキュウモクセイ	30	0.30	8.00	14.67	0.88
オオバギ	30	0.30	7.67	11.00	0.68
ヒメユズリハ	30	0.30	3.00	4.00	0.24
ア ギ	20	0.20	15.50	45.00	1.80
ヒイランシャリンバイ	20	0.20	6.50	11.00	0.44
ナカハラクロキ	20	0.20	4.50	8.50	0.34
ハマイヌビワ	20	0.20	5.50	6.50	0.26
クワノハエノキ	20	0.20	5.50	4.50	0.18
バクチノキ	20	0.20	2.00	3.50	0.14
マルミボチョウジ	20	0.20	2.00	2.00	0.08
シイクロシャー	20	0.20	1.50	1.00	0.04
ガジュマル	10	0.10	13.00	30.00	1.60
ホンバムクイヌビワ	10	0.10	15.00	40.00	0.80
リュウキュウコクタン	10	0.10	10.00	19.00	0.33
セ ン ダ ン	10	0.10	10.00	16.00	0.32
リュウキュウクロウメドキ	10	0.10	6.00	7.00	0.14
イ ヌ マ キ	10	0.10	3.00	2.00	0.04
フ ト モ モ	10	0.10	3.00	2.00	0.04
カキバカンコノキ	10	0.10	2.00	2.00	0.04
カ ク レ ミ ノ	10	0.10	2.00	1.00	0.02
合 計	9,860				

表5-5は、本部半島石灰岩質母材における照葉林を構成する主要樹種（リュウキュウガキ、クスノハカエデ、リュウキュウハリギリ）の樹高、胸高直径の分布を示したものである。この表から、前記樹種の樹高階をみるとリュウキュウガキは1mから12mの個体が分布し、幼木の密度が高い。また、クスノハカエデは1mから20mの個体が分布し、特に今帰仁村字諸志の東面では16m以上の高木層を形成している。リュウキュウハリギリは7mから15mの個体が分布しているが、7m以下の個体が

出現しないのが特徴的である。なお、樹高階（第1層10m以上、第2層10m以下6m以上、第3層6m以下2m以上、第4層2m以下）に階層を区分して分析してみると、第1層はリュウキュウガキ1.45%、クスノハカエデ18.33%、リュウキュウハリギリ94.43%、第2層はリュウキュウガキ9.66%、クスノハカエデ13.99%、リュウキュウハリギリ5.55%、第3層リュウキュウガキ67.15%、クスノハカエデ53%、第4層リュウキュウガキ21.74%、クスノハカエデ13.33%の出現度で構成されている。特にリュウキュウガキは高木層から低木層まで安定して分布している。次に胸高直径の配分をみると、リュウキュウガキは1cmから27cm、クスノハカエデ1cmから60cm、リュウキュウハリギリ11~50cmの個体が分布している。この直径階（大径木10cm以上、中径木10cm以下8cm以上、小径木8cm以下4cm以上、細径木4cm以下1cm以上）に径級分析してみると、大径木はリュウキュウガキ5.32%、クスノハカエデ21.6%、リュウキュウハリギリ100%、中径木はリュウキュウガキ1.93%、クスノハカエデ4.99%、小径木はリュウキュウガキ20.77%、クスノハカエデ18.33%、細径木はリュウキュウガキ71.98%、クスノハカエデ54.99%という樹種ごとの階層分布をみせている。

第5-5表 本部半島石灰岩質母材照葉林内におけるリュウキュウガキ
胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 船 仁 村										本部町 具志堅	計	比率
	諸志 層1	" 層2	" 層3	" 層4	" 層5	" 層6	東上原 層1	" 層2	" 層3				
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	2	8	12	14	12	13	0	2	6	4	73	35.27	
2	5	8	6	6	5	14	2	6	3	0	55	26.57	
3	1	4	3	4	1	5	1	1	0	1	21	10.14	
4	1	7	3	5	1	2	0	0	0	0	19	9.18	
5	0	3	2	2	2	2	0	0	0	2	13	6.28	
6	0	0	4	1	0	0	0	0	1	0	6	2.90	
7	0	0	1	4	0	0	0	0	0	0	5	2.41	
8	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	4	1.93	
10	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.97	
11	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.48	
14	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.97	
17	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	2	0.97	
19	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	0.97	
26	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.48	
27	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.48	
計	11	33	35	36	21	37	5	12	10	7	207	100.00	

第5-5表 本部半島石灰岩質母材照葉林内におけるリュウキュウガキ樹高分布表

調査地 樹高	今 帰 仁 村										本 部 町	計	比 率
	諸 志 庵1	# 庵2	# 庵3	# 庵4	# 庵5	# 庵6	東 上 原 庵1	# 庵2	# 庵3	具 志 堅			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	1	5	9	8	10	0	2	6	3	45	21.74	
2	4	11	9	8	9	13	0	2	2	1	59	28.50	
3	2	10	6	11	0	5	2	4	1	0	41	19.81	
4	1	6	3	2	0	7	1	1	1	2	24	11.59	
5	1	2	5	2	4	0	1	0	0	0	15	7.25	
6	1	0	4	3	0	1	0	1	0	1	11	5.31	
7	0	1	2	1	0	0	0	0	0	0	4	1.93	
8	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	3	1.45	
9	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0.97	
10	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0.97	
12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.48	
計	11	33	35	38	21	37	5	12	10	7	207	100.00	

第5-6表 本部半島石灰岩質母材照葉林内におけるクスノハカエデ樹高分布表

調査地 樹高	今 帰 仁 村										本 部 町	計	比 率
	諸 志 庵1	# 庵2	# 庵3	# 庵4	# 庵5	# 庵6	東 上 原 庵1	# 庵2	# 庵3	具 志 堅			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	8	13.33	
2	0	0	0	0	0	0	3	2	2	2	9	15.00	
3	0	0	2	0	0	0	1	2	3	1	9	15.00	
4	0	0	1	0	0	0	3	2	1	2	9	15.00	
5	0	0	1	0	0	0	3	1	0	0	5	8.33	
6	0	0	0	0	0	0	1	2	1	0	4	6.67	
7	1	0	0	0	0	0	2	2	0	0	5	8.33	
10	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
11	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3.33	
12	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	5.00	
13	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3.33	
16	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
17	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
20	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
計	1	2	5	1	0	0	13	19	10	9	60	100.00	

第5-5表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林内におけるクスノハカエデ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 帰 仁 村										計	比 率	
	諸 志 No.1	" No.2	" No.3	" No.4	" No.5	" No.6	東 上 原 No.1	" No.2	" No.3	本 部 町 具 志 堅			
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	0	0	2	1	3	5	11	18.33	
2	0	0	0	0	0	0	2	3	2	3	10	16.67	
3	0	0	3	0	0	0	3	3	2	1	12	20.00	
4	0	0	1	0	0	0	2	1	2	0	6	10.00	
5	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3.33	
6	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	3	5.00	
8	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	3.33	
9	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
11	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.67	
12	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1.67	
13	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
14	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	3.33	
15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
18	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1.67	
40	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
50	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	3.33	
60	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1.67	
計	1	2	5	1	0	0	13	19	10	9	60	100.00	

第5-5表 本部半島石灰岩質母材照葉林内におけるリュウキュウハリギリ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 帰 仁 村										計	比 率	
	諸 志 No.1	" No.2	" No.3	" No.4	" No.5	" No.6	東 上 原 No.1	" No.2	" No.3	本 部 町 具 志 堅			
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	5.56	
12	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5.56	
14	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5.56	
15	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	11.11	
16	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5.56	
17	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	2	11.11	
19	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2	11.11	
20	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5.56	
22	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5.56	
23	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	5.56	
24	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	2	11.11	
26	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	5.56	
30	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5.56	
50	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	5.56	
計	0	2	0	5	4	6	0	0	0	1	18	100.00	

第5-5表 本郡半島石灰岩質母材照葉林内におけるリウキョウハリギリ樹高分布表

調査地 樹高	今 帰 仁 村										具志堅	計	比 率
	諸志 原1	# 原2	# 原3	# 原4	# 原5	# 原6	東上原 原1	# 原2	# 原3				
(m) 7	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 0	(本) 1	(本) 1	(%) 5.56
10	0	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	4	22.22
11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22.22
12	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	0	5	27.78
13	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	2	11.11
15	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	11.11
計	0	2	0	5	4	6	0	0	0	0	1	18	100.00

(2) 本郡半島地域の照葉樹二次林

④ 石灰岩質母材の照葉二次林

第5-6表は、石灰岩質母材の照葉樹二次林の樹体密度と樹高直径階別の分布を各ブロット別に示したものである。この表からして、分布率の高い樹高直径階は1cm28.89%、2cm13.91%、3cm12.91%、4cm11.34%となり、4cm以下の樹体が全体の69.14%を占めている。この他は非石灰岩質母材の北部地域の照葉樹二次林の61.45%程度に相当する。これは沖島の赤林がもつ特徴的なものと思われる。また15cm以上の大径本にはタブ、ホルトノギ、シマズゴ、ヤブコケイ、イジヤ、ヒイランツォリンバイ、オスノギ、オオハマボウ等の樹種がある。

第5-6表 本部半島石灰岩質母材における照葉二次林胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率
	乙 羽 岳 No.1	乙 羽 岳 No.2	玉 城 No.1	玉 城 No.2	大 当 原	山 入 端 No.1	山 入 端 No.2	嘉 津 宇 岳 No.1	嘉 津 宇 岳 No.2	嘉 津 宇 岳 No.3		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	6	37	41	10	19	20	20	70	19	34	276	22.55
2	17	27	33	15	20	22	16	59	11	11	231	18.87
3	15	11	21	17	11	5	10	56	6	6	158	12.91
4	8	22	10	10	12	15	14	37	7	5	140	11.44
5	5	18	6	14	7	8	12	16	11	2	99	8.09
6	7	13	2	7	5	13	17	4	12	1	81	6.62
7	11	6	7	5	4	6	6	3	11	6	65	5.31
8	5	5	2	9	3	8	4	6	8	4	54	4.41
9	1	3	0	2	3	1	3	0	4	4	21	1.71
10	4	4	4	3	3	4	1	0	11	1	35	2.86
11	1	0	2	1	3	0	0	0	1	0	8	0.65
12	0	0	2	3	3	0	0	1	1	6	16	1.31
13	2	1	0	2	1	1	2	0	2	0	11	0.90
14	3	0	0	0	2	1	0	0	0	1	7	0.57
15	2	0	1	0	0	0	0	0	0	2	5	0.41
16	1	0	3	0	0	1	0	0	0	1	6	0.49
17	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	4	0.33
18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3	4	0.33
21	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0.16
24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.08
計	88	147	136	98	98	105	105	252	105	90	1,224	100.00

第5-7表は、石灰岩質母材の照葉樹二次林について樹高階の分布を示したものである。この表からして出現度の高い樹高階層の順位は、3mクラスの22.30%、2mの20.91%、4mの15.77%、5mの12.91%、6mの10.46%で、2~6mの樹高クラスが全体の82.35%を占めている。なお、10m以上の樹高は全体の0.33%で、この樹種は人工により植栽したモクマオウであり、天然生としてはヤブニッケイ、ホルトノキ、イスノキが9mクラスに出現するだけである。特に、この樹高階は北部地域の非石灰岩質母材における照葉樹二次林の最高11mに対し、石灰岩質母材特有の樹種は9mが最高であった。この現象は、石灰岩質母材の森林が一般的に樹高は低いということがいえる。

第5-7表 本部半島石灰岩質母材における照葉樹二次林樹高分布表

調査地 樹高	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率
	乙羽岳 No.1	乙羽岳 No.2	玉城 No.1	玉城 No.2	大当原	山入端 No.1	山入端 No.2	嘉津宇岳 No.1	嘉津宇岳 No.2	嘉津宇岳 No.3		
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	0	24	1	5	10	5	2	18	27	93	7.60
2	13	39	29	17	21	18	25	74	6	14	256	20.91
3	13	31	15	16	14	29	17	121	8	9	273	22.30
4	16	17	28	22	9	18	27	51	3	2	193	15.77
5	15	33	11	17	16	21	23	4	13	5	158	12.91
6	16	19	9	15	10	8	8	0	31	12	128	10.46
7	11	8	10	7	11	1	0	0	25	15	88	7.19
8	3	0	3	3	3	0	0	0	0	3	20	1.63
9	0	0	4	0	4	0	0	0	1	2	11	0.90
10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.08
12	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3	0.25
計	88	147	136	98	98	105	105	252	105	90	1,224	100.00

第5-8表は、本部半島石灰岩質母材における照葉樹二次林の組成表である。この表で示されるように、石灰岩質母材の照葉樹二次林ではイヌノキが平均優占度2.2、頻度60を示しているが、この樹種は地域的な差があり、今婦仁村字玉城、名護市字山入端一帯の森林には殆んど出現しない。また、ヤブニッケイは平均優占度2.0、頻度100を示し、本部半島石灰岩質母材の照葉樹二次林の全地域に渡って分布し、石灰岩質母材の森林を形成するイヌノキ、サンゴジュ、タブ、ヒイランシャリンバイ、ホルトノキとともに、主要な樹種となっている。なお、照葉林においてはリュウキュウガキ、クスノハカエデ、リュウキュウハリギリを主体とする群落構造であったが、照葉樹二次林は前記樹種と変っている。これは、照葉樹二次林を構成する今婦仁村乙羽岳、玉城、名護市山入端、嘉津宇岳一帯の里近い林で、岩石が露出し、しかも数回の伐採により森林が乱され、土壌が乾燥状態におかれたため繁殖力旺盛（萌芽力、タネの発芽力、耐乾性）なイヌノキ、サンゴジュ、タブ、ヒイランシャリンバイ、ホルトノキ群落になったものと推察される。

第5-8表 本部半島石灰岩質母材における照葉二次林組成表 (古世層石灰岩)

調査地	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					平均優占度	頻度
	乙羽 岳 No.1	乙羽 岳 No.2	玉 城 No.1	玉 城 No.2	大 当 原	山 入 端 No.1	山 入 端 No.2	嘉 津 宇 岳 No.1	嘉 津 宇 岳 No.2	嘉 津 宇 岳 No.3		
イ ス ノ キ	4	4	0	0	4	0	0	2	5	3	2.2	60
ヤ ブ ニ ッ ケ イ	+	+	+	3	3	4	3	3	+	2	2.0	100
サ ン ゴ シ ユ	0	0	2	3	1	0	0	+	3	4	1.4	60
タ プ	3	1	1	2	0	2	2	+	+	+	1.3	90
ヒ メ ユ ズ リ ハ	0	0	0	0	0	3	4	1	0	0	0.8	30
ヒ イ ラ ン シ ャ リ ン バ イ	+	0	1	1	0	+	+	3	0	+	0.7	70
ホ ル ト ノ キ	2	2	+	+	3	1	0	+	0	0	1.0	70
リ ュ キ ュ ク ロ ウ メ ト キ	+	0	0	1	+	+	+	2	2	1	0.8	80
イ ヌ ビ ワ	+	+	1	+	1	0	0	+	2	1	0.7	80
ク ス ノ ハ カ エ デ	+	2	0	0	1	+	0	2	0	0	0.6	50
シ マ タ ゴ	3	+	0	+	0	0	0	1	0	0	+	40
ト ベ ラ	1	1	+	+	+	+	0	1	1	+	0.7	90
ハ ゼ ノ キ	+	2	0	+	0	1	1	0	0	0	+	50
シ イ ク ワ シ ャ	0	+	+	+	0	1	2	+	0	0	+	60
ク チ ナ シ	+	+	+	2	0	+	+	+	+	+	0.6	90
リ ュ キ ュ ウ ガ キ	+	0	0	+	0	1	0	0	0	0	+	30
フ カ ノ キ	+	0	2	+	0	0	0	+	0	0	+	40
モ ク マ オ ウ	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	+	10
イ ジ ユ	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	+	20
ク ス ノ キ	0	+	2	0	0	0	0	+	0	0	+	30
リ ュ キ ュ ウ マ ツ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	2	+	20
オ オ シ イ バ モ チ	0	1	0	0	0	+	0	0	0	0	+	20
オ ナ カ ハ ラ タ ロ キ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	+	10
ア マ ミ ア ラ カ シ	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	+	10
ボ チ ョ ウ ジ	+	0	1	+	+	0	0	+	+	+	+	70
コ バ ン モ チ	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	+	10
ハ マ ビ ワ	+	0	0	+	1	+	0	0	0	0	+	40
ハ ソ ウ シ ジ ユ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	+	10
シ ョ ウ ベ ン ノ キ	+	+	0	+	0	0	0	0	0	0	+	30
ゲ ッ キ ツ	+	0	0	0	+	+	+	0	0	0	+	40
エ ゴ ノ キ	0	+	0	+	0	0	0	0	0	0	+	20
ニ ガ キ	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	+	20
ビ サ カ キ	0	0	+	+	0	+	+	0	0	0	+	30
カ ク レ ミ ノ	0	0	1	+	0	0	0	0	0	0	+	20
リ ュ キ ュ ウ モ ク セ イ	+	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	20
ア オ ギ リ	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	+	10
ゴ ン ズ イ	0	0	+	+	0	0	0	0	0	0	+	20
オ オ ハ マ ボ ウ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	+	10
ギ ョ ク シ ン カ	0	0	0	0	+	0	0	+	+	+	+	40

調査地 樹種名	今 婦 仁 村				本 部 町	名 護 市					平 均 優 占 度	頻 度
	乙 羽 岳 原1	乙 羽 岳 原2	玉 城 原1	玉 城 原2	大 当 原	山 入 端 原1	山 入 端 原2	嘉 津 宇 岳 原1	嘉 津 宇 岳 原2	嘉 津 宇 岳 原3		
シ シ ア ク チ	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	+	20
イ ス ガ シ	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ア カ メ ガ シ	0	0	+	0	0	0	0	+	0	0	+	20
モ チ ノ キ	0	0	0	0	0	+	+	+	0	0	+	30
カ ン コ ノ キ	0	+	+	0	0	0	+	0	0	0	+	30
ハ マ イ ス ビ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
ツ バ キ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	+	10
セ ン ダ ン	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
タ イ ミ ン タ ナ	+	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	20
コ ウ シ ュ ウ ヤ	0	0	0	0	0	0	0	0	+	+	+	20
ア デ タ	0	0	0	0	0	+	+	0	0	0	+	20
シ バ ニ ッ ケ イ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
ヒ カ ン ザ ク	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
フ ヨ ウ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
ク ス ノ ハ ガ シ	0	0	0	0	0	0	0	0	+	+	+	20
オ オ バ	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ト キ ワ ガ キ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
オ オ バ ル リ ミ ノ	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	+	10
モ ク タ チ バ ナ	0	0	+	+	0	0	0	+	0	0	+	30
ヤ マ モ モ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
チ シ ャ ノ キ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
ナ ガ バ イ ス ツ ゲ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
リ ュ ウ キ ュ ウ ア オ	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ネ ズ ミ モ チ	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	+	10
オ シ マ コ バ ン ノ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
バ リ バ リ ノ キ	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ル リ ミ ノ キ	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ギ イ マ	0	0	+	0	0	+	+	0	0	0	+	30
イ ス マ キ	0	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	20
ツ ゲ モ ド キ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
オ キ ナ ワ シ キ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
ハ ク サ ン ボ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
ギ ヨ ボ ク	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10

5……1/2以上を占める。 4……1/4以上を占める。 3……1/3以上を占める。
2……1/16以上を占める。 1……1/16以下を占める。 +……1の半分以下を占める。

第5-9表は、本部半島石灰岩質母材の照葉樹二次林におけるha当りの樹種構成と、各樹種における平均樹高、平均胸高直径を各方形区から算出して示したものである。この表からして、本部半島地域の石灰岩質母材の照葉樹二次林はha当り12,160本の平均成立本数に対し、イスノキが2,410本、ヤブニッケイ1,520本、サンゴジュ650本、イヌビワ640本、ヒイランシャリンバイ610本、リュウキュウクロウメモドキ610本、ヒメユズリハ490本、タブ430本、クチナン420本という樹種構成で形づけられている。特にこの石灰岩質母材を基盤として成立する森林は、組成表でも明らかのように照葉林と照葉樹二次林では優占樹種が異なり、照葉林においてはリュウキュウガキ、照葉樹二次林においてはイスノキが優占種となっているが、ha当りの本数密度はリュウキュウガキ20.99%、イスノキ19.82%という値で、殆んど差がない。このことは、本部半島石灰岩質母材の特徴的なものと推察される。また、平均樹高においては人工植栽したモクマオウが10.60m、ソウシジュが8.50mで、普通の構成樹種は3~6m程度で一般的に樹高は低い。

第5-9表 本部半島石灰岩質母材における照葉二次林構成表

樹種名	ha当り 本数 (本)	本数率 (%)	平均 樹高 (m)	平均 胸高直径 (cm)	胸高 直径率 (%)
イスノキ	2,410	19.82	3.90	3.91	18.67
ヤブニッケイ	1,520	12.50	3.73	4.22	12.73
サンゴジュ	650	5.35	5.18	6.92	8.92
イヌビワ	640	5.26	3.17	2.41	3.05
ヒイランシャリンバイ	610	5.02	3.07	3.07	3.71
リュウキュウクロウメモドキ	610	4.11	3.98	3.78	3.75
ヒメユズリハ	490	4.03	3.88	4.76	4.62
タブ	430	3.54	5.02	6.05	5.15
クチナン	420	3.45	2.36	1.83	1.53
クスノハカエデ	390	3.21	3.97	3.87	2.99
トベラ	370	3.04	3.59	3.24	2.38
シクワシャー	350	2.88	2.80	2.80	1.94
ボチウジ	290	2.38	1.34	1.21	0.69
ホルトノキ	220	1.81	6.45	9.09	3.96
シマタゴ	200	1.64	4.85	7.05	2.79
ハゼノキ	180	1.48	5.33	6.06	2.16
リュウキュウガキ	140	1.15	4.50	5.00	1.39
フカノキ	130	1.07	4.77	5.08	1.31
ヒサカキ	120	0.99	2.00	1.83	0.44
シシアクチ	120	0.99	1.58	1.25	0.30
アマミアラカシ	110	0.91	3.00	3.27	0.71
ハマビワ	110	0.91	4.18	3.73	0.81
ギョクシンカ	110	0.91	1.55	1.36	0.30
クスノキ	80	0.66	6.63	7.13	1.13
イジュ	70	0.58	6.43	9.00	1.25
イオシイモチ	70	0.58	5.14	5.57	0.77

樹 種 名	ha 当り 本 数	本 数 率	平 均 樹 高	平 均 胸高直径	胸 高 直 径 率
	(本)	(%)	(m)	(cm)	(%)
ナカハラクロキ	70	0.58	5.14	5.57	0.77
ゲ ッ キ ツ	70	0.58	2.57	3.43	0.47
カクレミノ	70	0.58	3.43	2.86	0.40
ア デ ク	70	0.58	2.14	1.29	0.18
ク ス ノ ハ ガ シ ワ	70	0.58	1.43	1.14	0.16
シ ョ ウ ベ ン ノ キ	60	0.49	4.67	4.33	0.51
リ ュ キ ュ ウ モ ク セ	60	0.49	3.50	3.83	0.46
ゴ ン ズ イ	60	0.49	4.17	3.17	0.38
コ ウ シ ュ ウ ヤ ク	60	0.49	1.67	1.67	0.20
オ オ バ ル リ ミ ノ キ	60	0.49	1.33	1.00	0.12
モ ク マ オ ウ	50	0.41	10.60	12.60	1.25
ア カ メ ガ シ ワ	50	0.41	4.80	4.40	0.44
タ イ ミ ン タ チ バ ナ	50	0.41	2.80	2.20	0.20
ニ ガ キ	40	0.33	6.75	9.75	0.77
コ バ ン モ チ	40	0.33	4.75	8.50	0.67
モ チ ノ キ	40	0.33	3.00	3.50	0.28
リ ュ キ ュ ウ マ ツ	30	0.25	8.33	14.67	0.87
イ ヌ ガ シ	30	0.25	4.67	4.67	0.28
ツ バ キ	30	0.25	5.00	4.00	0.24
カ ン コ ノ キ	30	0.25	4.33	4.00	0.24
モ ク タ チ バ ナ	30	0.25	2.00	2.00	0.12
ル リ ミ ノ キ	30	0.25	2.00	1.00	0.06
ギ イ マ キ	30	0.25	1.67	1.00	0.06
イ ヌ マ キ	30	0.25	1.67	1.00	0.06
ソ ウ シ ジ ュ	20	0.16	8.50	14.00	0.56
エ ゴ ノ キ	20	0.16	7.50	11.50	0.45
ハ マ イ ス ビ ワ	20	0.16	4.00	6.00	0.24
シ バ ニ ッ ケ イ	20	0.16	3.50	4.50	0.18
ツ ゲ モ ド キ	20	0.16	4.00	2.00	0.08
リ ュ キ ュ ウ ア オ キ	20	0.16	2.00	2.00	0.08
オ オ ハ マ ボ ウ	10	0.08	7.00	18.00	0.36
セ ン ダ ン	10	0.08	7.00	11.00	0.22
ヒ カ ン ザ ク ラ	10	0.08	6.00	8.00	0.16
フ ヨ ウ	10	0.08	4.00	8.00	0.16
オ オ バ ギ	10	0.08	7.00	7.00	0.14
ト キ ワ ガ キ	10	0.08	5.00	7.00	0.14
ヤ マ モ モ	10	0.08	5.00	6.00	0.12
チ シ ヤ ノ キ	10	0.08	5.00	5.00	0.10
ナ ガ バ イ ヌ ツ ゲ	10	0.08	4.00	5.00	0.10
オ オ シ マ コ バ ン ノ キ	10	0.08	4.00	4.00	0.08
ネ ズ ミ モ チ	10	0.08	3.00	4.00	0.08
バ リ バ リ ノ キ	10	0.08	4.00	3.00	0.06
オ キ ナ ワ シ キ	10	0.08	2.00	1.00	0.02
ハ ク サ ン ボ ク	10	0.08	2.00	1.00	0.02
ギ ョ ボ ク	10	0.08	1.00	1.00	0.02
計	12,160				

第5-10表は、石灰岩質母材における照葉樹二次林を構成する主要樹種（イスノキ、ヤブニッケイ、タブ）の樹高、胸高直径の配分を示したものである。この表から各樹種の樹高配分をみると、イスノキは1mから9mの個体が分布し、低木の密度が高いことがわかる。これを樹高階（第1層8m以上、第2層8m以下6m以上、第3層6m以下4m以上、第4層4m以下1m以上）に階層を分析してみると第1層はイスノキ0.83%、ヤブニッケイ1.98%、タブ0%、第2層イスノキ23.62%、ヤブニッケイ12.50%、タブ44.19%、第3層はイスノキ22.79%、ヤブニッケイ34.87%、タブ44.18%、第4層はイスノキ52.80%、ヤブニッケイ50.05%、タブ11.63%という率で樹高階を構成している。特にイスノキとヤブニッケイは第1層から第4層までやや安定して分布しているが、タブは第1層にはなく第2層から分布している。このことは、本部半島地域における石灰岩質母材の特徴かと思われる。また直径階を照葉林と同様に分類してみると、細径木はイスノキ59.03%、ヤブニッケイ63.81%、タブ39.54%、小径木はイスノキ20.56%、ヤブニッケイ23.02%、タブ30.23%、中径木はイスノキ9.13%、ヤブニッケイ9.87%、タブ20.92%、大径木はイスノキ2.50%、ヤブニッケイ3.30%、タブ9.31%という密度で分布している。

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林内におけるイスノキ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率
	乙	"	玉	"	大	山	"	嘉	"	"		
	羽 岳 No.1	No.2	城 No.1	No.2	当 原	入 端 No.1	No.2	津 宇 岳 No.1	No.2	No.3		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	2	25	0	0	9	0	0	15	1	0	53	21.99
2	8	17	0	0	13	0	0	11	1	2	52	21.58
3	8	5	0	0	8	0	0	6	3	5	35	14.52
4	3	6	0	0	3	0	0	4	5	1	22	9.13
5	1	3	0	0	7	0	0	2	4	1	18	7.47
6	3	2	0	0	3	0	0	0	9	0	17	7.05
7	3	1	0	0	1	0	0	0	10	1	16	6.64
8	2	1	0	0	1	0	0	0	6	1	11	4.56
9	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.42
10	1	1	0	0	0	0	0	0	8	0	10	4.15
11	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.42
12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0.83
14	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.42
18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0.42
24	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0.42
計	31	61	0	0	46	0	0	39	50	14	241	100.00

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林におけるイスノキ樹高分布表

調査地	今 帰 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率	
	乙羽岳 No.1	" No.2	玉城 No.1	" No.2	大当原	山入端 No.1	" No.2	嘉津字岳 No.1	" No.2	" No.3			
樹高 (m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	2	0.83	
2	8	25	0	0	14	0	0	17	1	1	66	27.39	
3	5	21	0	0	7	0	0	18	2	6	59	24.48	
4	7	5	0	0	7	0	0	4	2	1	26	10.79	
5	6	6	0	0	8	0	0	0	8	1	29	12.04	
6	4	4	0	0	6	0	0	0	20	2	36	14.94	
7	1	0	0	0	2	0	0	0	15	3	21	8.71	
8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.41	
9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.41	
計	31	61	0	0	46	0	0	39	50	14	241	100.00	

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林におけるヤブニッケイ胸高直径分布表

調査地	今 帰 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率	
	乙羽岳 No.1	" No.2	玉城 No.1	" No.2	大当原	山入端 No.1	" No.2	嘉津字岳 No.1	" No.2	" No.3			
胸高直径 (cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	2	0	4	5	7	6	9	51	20.39	
2	0	2	1	0	2	11	5	7	1	2	31	20.39	
3	1	1	0	1	0	2	5	7	0	0	15	9.87	
4	0	0	0	1	5	4	4	3	0	0	20	13.16	
5	1	0	0	1	0	4	3	1	0	0	10	6.58	
6	0	0	0	1	1	7	3	1	0	0	13	8.55	
7	0	0	0	2	2	4	2	2	0	0	12	7.69	
8	0	0	0	3	1	2	0	0	0	0	6	3.95	
9	0	1	0	1	1	1	1	0	0	0	5	3.29	
10	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	4	2.63	
12	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	1.32	
16	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0.66	
18	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.66	
21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.66	
計	2	4	1	13	15	41	28	32	7	13	152	100.00	

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林におけるヤブニッケイ樹高分布表

調査地 樹高	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率
	乙羽 岳 No.1	" No.2	玉 城 No.1	" No.2	大 当 原	山 入 端 No.1	" No.2	嘉 津 宇 岳 No.1	" No.2	" No.3		
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	0	0	0	0	6	8	14	9.21
2	0	0	0	2	0	10	6	7	0	1	26	17.10
3	1	2	1	0	2	9	3	16	1	2	37	24.34
4	0	1	0	1	0	9	6	7	0	0	24	15.79
5	0	0	0	4	5	10	8	2	0	0	29	19.08
6	1	0	0	4	2	2	1	0	0	0	10	6.58
7	0	1	0	2	4	1	0	0	0	1	9	5.92
8	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.66
9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1.32
計	2	4	1	13	15	41	24	32	7	13	152	100.00

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林におけるタブ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率
	乙羽 岳 No.1	" No.2	玉 城 No.1	" No.2	大 当 原	山 入 端 No.1	" No.2	嘉 津 宇 岳 No.1	" No.2	" No.3		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3	6.98
2	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	4.65
3	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	3	6.98
4	3	0	1	0	0	2	2	1	0	0	9	20.93
5	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6.98
6	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	9.30
7	4	0	0	1	0	1	0	0	0	0	6	13.95
8	2	0	0	1	0	1	1	0	0	0	5	11.62
9	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4.65
10	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	2	4.65
11	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2.33
12	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2.33
13	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	4.65
計	13	5	5	5	0	5	6	2	1	1	43	100.00

第5-10表 本部半島石灰岩質母材照葉二次林内におけるタブ樹高分布表

樹高 (m)	今 婦 仁 村				本部町	名 護 市					計	比 率 (%)
	乙	"	玉	"	大	山	"	嘉	"	"		
	羽 岳 No.1	No.2	城 No.1	No.2	当 原	入 端 No.1	No.2	津 宇 岳 No.1	No.2	No.3		
1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	4.65
2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2.33
3	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	4.65
4	0	1	2	1	0	0	1	1	0	0	6	13.95
5	5	1	1	1	0	2	3	0	0	0	13	30.23
6	5	3	2	3	0	2	1	0	0	0	16	37.21
7	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	6.98
計	13	5	5	5	0	5	6	2	1	1	43	100.00

(iv) 非石灰岩質母材の照葉樹二次林

第5-11表は、本部半島地域の非石灰岩質母材における照葉樹二次林の胸高直径階別に対する、個体密度の分布を示したものである。この表からして、配分率の高い階層順位は1cmクラスが30.68%、2cm 21.35%、3cm 9.04%となり、直径の増大にともない、本数は低くなっている。また、4cm以下の個体が全体の77.51%を占め、北部地域の非石灰岩質母材の照葉樹二次林の61.45%と比較し、副産木の密度が高い。しかし、16cm以上の大径木は北部地域の0.09%に対し本部半島地域の場合は5.65%の比率で分布し、その樹種はイタジイである。

第5-11表 本部半島非石灰岩質母材に於ける照葉二次林胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今帰仁村			本 部 町					名 護 市		計	比 率	
	乙羽岳 No.1	乙羽岳 No.2	乙羽岳 No.3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 No.1	伊豆味 No.2	安和 No.1	安和 No.2			
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	93	32	13	33	171	56	26	14	56	125	619	39.68	
2	38	18	34	10	37	46	27	7	38	76	333	21.35	
3	11	6	19	4	8	10	17	2	22	42	141	9.04	
4	6	5	12	8	9	11	1	2	21	41	116	7.44	
5	6	3	9	3	8	4	0	0	13	16	62	3.98	
6	0	2	7	2	10	5	4	1	14	9	54	3.46	
7	2	4	6	1	10	2	0	0	1	9	35	2.24	
8	0	4	11	2	5	4	0	0	12	3	41	2.63	
9	1	4	6	4	8	4	0	0	4	1	32	2.05	
10	1	2	3	2	7	1	1	0	3	1	21	1.35	
11	0	3	1	1	3	0	0	0	2	0	10	0.64	
12	2	2	3	1	5	1	1	0	4	1	20	1.28	
13	0	0	3	2	1	0	0	1	0	0	7	0.45	
14	0	1	1	0	1	4	0	2	0	0	9	0.58	
15	0	0	0	1	0	0	1	1	0	0	3	0.19	
16	1	2	1	2	0	1	0	1	0	0	8	0.51	
17	1	4	0	1	1	0	1	1	0	0	9	0.58	
18	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0.13	
19	0	1	0	0	0	0	4	1	0	0	6	0.39	
20	0	2	0	0	0	1	1	2	0	0	6	0.39	
21	1	0	1	1	0	0	2	2	0	0	7	0.45	
22	3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	5	0.32	
23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.06	
24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.13	
25	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.06	
26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.06	
27	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0.26	
30	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.19	
31	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.06	
32	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.06	
計	176	95	131	79	184	150	90	39	190	326	1,560	100.	

第5-12表は、本部半島非石灰岩質母材における照葉樹二次林の樹高分布を示したものである。このことから、樹高2mの個体が全体の24.94%で最も多く、次に1mクラスが18.59%、3m 16.79%という配分率を示し、3m以下の個体が60.32%で、下木層の密度が高くなっている。これを各プロット毎に見当してみると、今帰仁村乙羽岳一帯で最高、谷間において12m、中腹9m、尾根8m、また、本部町大当原一帯平地で12m、喜納原一帯の中腹で11m、八重岳一帯で9m、伊豆味谷間で17m、中腹14m、名護市安和一帯で8mという樹高を示している。特に、本部町伊豆味一帯の森林は北部地域では見ることのできない美林が、小面積で残っている。これは、立地条件による樹高差かと推察される。

第5-12表 本部半島非石灰岩質母材における照葉二次林樹高分布表

調査地 樹高	今帰仁村			本部町					名護市		計	比率	
	乙羽岳 %1	乙羽岳 %2	乙羽岳 %3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 %1	伊豆味 %2	安和 %1	安和 %2			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	25	7	1	22	113	23	16	3	1	51	590	18.59	
2	87	28	22	14	66	40	19	11	55	47	539	24.94	
3	26	15	30	6	23	29	16	5	36	71	262	16.79	
4	12	0	15	6	11	14	20	2	19	44	152	9.74	
5	6	8	15	3	5	13	2	3	34	44	138	8.65	
6	3	3	17	4	10	14	2	2	25	29	111	7.12	
7	0	30	28	7	14	11	0	1	17	7	95	6.09	
8	0	8	3	6	8	5	0	0	3	0	33	2.11	
9	2	5	0	3	10	1	0	0	0	0	21	1.35	
10	5	0	0	1	17	0	1	1	0	0	25	1.60	
11	5	0	0	0	7	0	0	0	0	0	12	0.77	
12	5	0	0	2	0	0	1	0	0	0	8	0.51	
13	0	0	0	0	0	0	7	2	0	0	9	0.58	
14	0	0	0	0	0	0	6	7	0	0	13	0.83	
17	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	0.13	
計	176	95	131	79	284	150	90	39	150	326	1,560	100.00	

第5-13表は、本部半島非石灰岩質母材における照葉樹二次林の組成表である。この組成表で示されるように、本部半島地域における非石灰岩質母材の照葉樹二次林と同型の森林であるが、石灰岩質母材が混在した場所においてはフトモモ、キイルンカンコノキ、シマタゴ、アカギ、サンゴジュ、オオバイヌ、シイクワシャー等の樹種が各地で出現する。なおこの組成表で、本部町大当原一帯ではイタシイがなくなり、イシ、コバンモチに移行し、美里村、嘉手納村、読谷村一帯の森林型となっている。

第5-13表 本部半島非石灰岩質母材における照葉二次林組成表

調査地 樹種名	今帰仁村			本部町				名護市		平均優占度	頻度	
	乙羽岳 No.1	乙羽岳 No.2	乙羽岳 No.3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 No.1	伊豆味 No.2	安和 No.1			安和 No.2
イ タ ジ イ	5	5	1	0	5	4	5	2	4	5	3.6	90
イ ジ ユ	0	0	4	4	2	2	2	5	2	+	2.2	80
コ バ ン モ チ	+	1	3	2	+	+	2	0	+	1	1.1	90
ナカハラクロキ	+	0	+	+	1	2	+	2	+	+	0.8	90
タ プ	+	+	1	2	+	1	+	0	+	+	0.7	90
タイミンタチバナ	3	0	0	0	+	0	1	0	+	+	0.7	60
シ シ ア ク チ	0	1	0	0	2	+	0	+	+	1	+	50
フ カ ノ キ	2	2	0	+	0	1	0	0	+	0	0.6	50
エ ゴ ノ キ	0	1	2	0	0	0	0	0	+	0	+	30
イ ヌ ガ シ	+	+	1	+	+	+	0	0	0	+	+	70
ハ ク サ ン ボ ク	+	+	+	+	+	+	+	0	1	+	+	90
ヒ サ カ キ	0	0	0	+	+	+	0	0	2	+	+	50
シ マ ミ サ オ ノ キ	+	0	0	0	+	1	0	+	0	+	+	50
モ チ ノ キ	0	0	0	0	+	0	0	0	1	+	+	30
リ ユ ウ キ ユ ウ ガ キ	0	0	1	0	0	1	+	0	0	+	+	40
カ ク レ ミ ノ	0	+	+	0	+	+	0	0	+	+	+	60
フ ト モ モ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	+	10
ヤ ブ ニ ッ ケ イ	+	+	+	+	+	+	0	0	+	+	+	80
イ ス ノ キ	+	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	20
ク ン ナ シ	+	+	0	+	+	0	0	0	+	+	+	60
ク ロ ガ ネ モ チ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	+	10
ソ ウ シ ジ ユ	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	+	10
ト キ ワ ガ キ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	+	10
サ ザ ン カ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ヒ メ ユ ズ リ ハ	0	0	0	+	+	0	0	0	0	+	+	30
ミ ミ ズ バ イ	0	0	0	0	+	1	0	0	0	0	+	20
ク ス ノ キ	0	0	+	+	0	0	0	0	+	0	+	30
ホ ル ト ノ キ	0	0	1	0	+	0	0	0	0	0	+	20
ハ ゼ ノ キ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ヒイランシャリンバイ	+	0	0	+	+	0	0	0	+	0	+	40
サ ク ラ ツ ツ ジ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	+	10
ギ イ マ	0	0	+	+	+	+	0	0	0	+	+	50
ヒサカキサザンカ	0	0	0	1	0	0	+	0	0	0	+	20
ホソバムクイムビワ	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	+	10

調査地 樹種名	今帰仁村			本部町					名護市		平均優占度	類 度
	乙羽 店1	乙羽 店2	乙羽 店3	大 当 原	喜 納 原	八 重 店	伊 豆 味 店1	伊 豆 味 店2	安 和 店1	安 和 店2		
ヤマモモ	0	0	+	0	0	+	0	0	0	+	+	30
リュウキュウマツ	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ツバキ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
アマシバナ	0	0	0	0	0	+	+	0	+	0	+	30
モクダチバナ	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	+	30
イヌビワ	0	0	0	1	0	0	0	0	+	0	+	20
ヒカンサクラ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	+	10
オオシイバモチ	0	0	0	0	+	+	0	0	0	+	+	30
アデク	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	+	30
バリバリノキ	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	+	30
カキバカンノキ	+	+	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
ゴンズイ	+	0	0	+	0	0	0	0	+	0	+	30
クスノハカエデ	+	0	0	0	0	0	0	0	+	0	+	20
ホトチウジ	+	0	0	+	+	+	0	+	+	0	+	60
シバニッケイ	0	0	+	0	0	0	+	0	0	0	+	20
キングイヌビワ	+	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	20
カンコノキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
リュウキュウモクセイ	0	0	+	0	+	+	0	+	0	0	+	40
シロミミズ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	+	20
オオムラサキシキブ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	+	20
ジョウベンノキ	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
キイルンカンコノキ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
シマダゴ	0	0	0	0	+	+	0	0	0	0	+	20
アカミズキ	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	+	30
アカギ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	30
オキナワヒサカキ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	+	10
ギョクシンカ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	+	20
オキナワラジロガシ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
クスノハガシワ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
トバシラ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
ルリミノキ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
サシゴジュ	0	0	0	0	0	0	0	0	+	0	+	10
オオバイヌビワ	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ニッケイ	+	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ヤマビワ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
ハマヒサカキ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
シイタワシ	0	0	0	0	0	0	0	0	+	0	+	10

5……1/2以上を占める。 4……1/4以上を占める。 3……1/8以上を占める。
 2……1/16以上を占める。 1……1/16以下を占める。 +……1の半分以下を占める。

第5-14表は、本部半島非石灰岩質母材における照葉樹二次林のha当り樹種構成と、各樹種の平均樹高、平均胸高直径を各方形区から算出して示したものである。この表からして、本部半島非石灰岩質母材の照葉樹二次林のha当り総本数 15,570 本に対しイタジイ 3,760 本で 24.15%、イジュ 1,040 本で 6.68% という比率で混植しているが、本部半島地域の照葉樹二次林はやや後退性をあびていることが推察される。

第5-14表 本部半島非石灰岩質母材における照葉樹二次林構成表

樹種名	ha 当り 本数	本数率 (%)	平均 樹高 (m)	平均 胸高直径 (cm)	胸高 直径率 (%)
イタジイ	3,760	24.15	5.98	6.78	44.92
タイミンタチバチ	1,390	8.93	1.81	1.21	2.96
シシアクチ	1,140	7.33	1.12	1.02	2.04
イジュ	1,040	6.68	6.16	7.16	13.10
コバンモチ	720	4.63	3.82	3.50	4.44
ハクサンボク	590	3.79	2.32	1.39	1.44
ナカハラクロキ	500	3.21	2.94	2.66	2.34
シマミサオノキ	450	2.89	2.00	1.40	1.12
タブ	380	2.44	3.34	3.11	2.08
クチナシ	370	2.38	1.68	1.08	0.70
イヌガシ	360	2.31	2.94	2.31	1.46
ヒサカキ	350	2.25	2.97	2.14	1.32
ヤブニッケイ	310	1.99	2.29	1.58	0.86
フカノキ	290	1.86	3.93	4.24	2.17
カクレミノ	220	1.41	3.32	2.36	0.92
イスノキ	220	1.41	2.41	1.82	0.70
リュウキュウガキ	200	1.29	5.10	3.00	1.06
ツバキ	200	1.29	1.70	1.05	0.37
サザンカ	190	1.22	2.32	1.74	0.58
フトモモ	180	1.16	3.89	2.78	0.88
モチノキ	170	1.09	3.29	3.53	1.06
サクラツツジ	170	1.09	1.94	1.59	0.48
エゴノキ	160	1.03	5.38	5.38	1.51
モクダチバナ	150	0.96	1.60	1.13	0.30
クロガネモチ	130	0.83	3.69	3.00	0.69
ミミズバイ	110	0.71	4.00	2.82	0.55
ギイマ	110	0.71	2.73	2.27	0.44
オオシイバモチ	110	0.71	1.82	1.36	0.26

樹種名	ha 当り 本数	本数率 (%)	平均 樹高 (m)	平均 胸高直径 (cm)	胸高 直径率 (%)
イヌビワ	100	0.64	2.20	1.60	0.23
ヒメユズリハ	90	0.58	4.22	3.56	0.56
ヒランシャリンバイ	90	0.58	3.56	3.00	0.49
アマシバ	90	0.58	2.78	2.00	0.32
ボチウジ	90	0.58	1.33	1.00	0.16
アデク	80	0.51	2.63	1.86	0.28
ヒサカキサザンカ	70	0.45	3.43	3.37	0.44
ヤマモモ	70	0.45	3.71	3.14	0.39
ホソバムクイヌビワ	60	0.39	4.33	4.17	0.44
リュウキュウモクセイ	60	0.39	1.83	1.17	0.13
クスノキ	50	0.32	6.00	6.00	0.53
クスノハカエデ	50	0.32	2.60	1.80	0.16
トキワガキ	40	0.26	6.00	3.25	0.58
ホルトノキ	40	0.26	4.50	7.75	0.55
カキバカンコノキ	40	0.26	3.00	3.00	0.21
オオムラサキシキブ	40	0.26	2.50	1.75	0.12
ショウベンノキ	40	0.26	2.00	1.30	0.11
ハゼノキ	30	0.19	6.33	9.33	0.49
バリバリノギ	30	0.19	4.67	4.33	0.23
シバニッケイ	30	0.19	4.00	3.00	0.16
ゴンズイ	30	0.19	3.67	3.33	0.13
シロミミズ	30	0.19	2.67	2.33	0.12
シマタゴ	30	0.19	3.00	1.67	0.09
アカミズキ	30	0.19	2.33	1.67	0.09
クスノハガシワ	30	0.19	1.67	1.00	0.05
ソウシジユ	30	0.13	12.00	18.00	0.63
カンコノキ	20	0.13	4.50	4.00	0.14
ギンズイヌビワ	20	0.13	4.00	4.00	0.14
オキナワヒサカキ	20	0.13	3.00	2.00	0.07
アカカギ	20	0.13	2.00	2.00	0.07
ギョクシンカ	20	0.13	2.50	1.50	0.05
ルリキノキ	20	0.13	2.00	1.00	0.03
トベラ	20	0.13	1.00	1.00	0.03
リュウキュウマツ	10	0.06	7.00	22.00	0.39
ヒカンサクラ	10	0.06	8.00	16.00	0.23
キルンカンコノキ	10	0.06	6.00	6.00	0.11
オキナワウラジロガシ	10	0.06	4.00	3.00	0.05
サンゴジュ	10	0.06	3.00	2.00	0.03
オオバイスビワ	10	0.06	3.00	2.00	0.03
ハマヒサカギ	10	0.06	2.00	1.00	0.02
シイタワシ	10	0.06	2.00	1.00	0.02
ニッケイ	10	0.06	1.00	1.00	0.02
ヤマビワ	10	0.06	1.00	1.00	0.02
計	15,970				

第5-15表は、本部半島非石灰岩質母材の照葉樹二次林を構成する主要樹種（イタジイ、イジュ、コバンモチ）の樹高、胸高直径の分布を示したものである。この表から各樹種の樹高配分をみると、イタジイは1mから14mの個体が分布し、5mから6mの密度が高い。また、イジュは1mから17m、コバンモチは1mから7mの個体が分布している。特に本部町伊豆味一帯の森林に分布するイジュは樹形も良く、他の地域では見ることのできない高樹高の個体が分布している。これを樹高階（第1層10m以上、第2層10m以下6m以上、第3層6m以下2m以上、第4層2m以下）に階層分析してみると、第1層イタジイ14.10%、イジュ10.67%、コバンモチ0%、第2層はイタジイ37.23%、イジュ31.36%、コバンモチ19.45%、第3層はイタジイ47.87%、イジュ46.15%、コバンモチ62.50%、第4層はイタジイ0.80%、イジュ1.92%、コバンモチ6.94%で階層を構成している。次に各樹種の胸高直径の配分をみてみると、イタジイは1cmから32cm、イジュは1cmから31cm、コバンモチは1cmから13cmの個体が分布している。これも胸高直径階（大径木8cm以上、中径木8cm以下5cm以上、小径木5cm以下1cm以上）に区分してみると、大径木はイタジイ30.04%、イジュ41.35%、コバンモチ9.73%、中径木はイタジイ22.35%、イジュ10.57%、コバンモチ15.28%、小径木はイタジイ47.61%、イジュ47.12%、コバンモチ74.99%という樹種毎の胸高階分布をみせている。

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるイタジイ樹高分布表

(100 m²)

調査地 樹高	今 婦 仁 村			本 部 町					名 護 市		計	比 率
	乙 羽 岳	"	"	大 当 原	喜 納 原	八 重 岳	伊 豆 味 原1	"	安 和 原1	"		
	No.1	No.2	No.3	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)		
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	1	3	0.80
2	3	0	0	0	8	5	0	0	1	14	31	8.24
3	2	4	0	0	4	4	3	0	3	29	49	13.03
4	3	1	0	0	2	4	0	0	4	28	42	11.17
5	0	7	0	0	4	3	1	0	10	33	58	15.43
6	1	1	0	0	9	5	0	0	18	25	59	15.69
7	0	6	0	0	14	7	0	0	9	6	42	11.17
8	0	8	1	0	8	4	0	0	2	0	23	6.12
9	2	5	0	0	8	1	0	0	0	0	16	4.25
10	5	0	0	0	16	0	1	0	0	0	22	5.85
11	5	0	0	0	6	0	0	0	0	0	11	2.93
12	5	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	1.60
13	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	7	1.86
14	0	0	0	0	0	0	6	1	0	0	7	1.86
計	25	32	1	0	79	35	19	1	47	136	376	100.00

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるイジュ樹高分布表

(100 m²)

調査地 樹高	今帰仁村			本部町					名護市		計	比率	
	乙羽岳 №1	" №2	" №3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 №1	" №2	安和 №1	" №2			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2	1.92	
2	0	0	1	1	1	0	3	0	0	0	6	5.77	
3	0	0	2	0	2	1	5	0	1	1	12	11.54	
4	0	0	3	3	1	0	8	0	0	0	15	14.42	
5	0	0	5	7	0	0	1	0	2	0	15	14.42	
6	0	0	4	2	1	0	0	0	0	2	9	8.66	
7	0	0	11	4	0	1	0	1	4	1	22	21.16	
8	0	0	2	5	0	1	0	0	0	0	8	7.69	
9	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	4	3.85	
10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.96	
11	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.96	
13	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1.92	
14	0	0	0	0	0	0	0	6	0	0	6	5.77	
17	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96	
計	0	0	28	26	9	3	17	10	7	4	104	100.00	

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるコバンモチ樹高分布表

(100 m²)

調査地 樹高	今帰仁村			本部町					名護市		計	比率	
	乙羽岳 №1	" №2	" №3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 №1	" №2	安和 №1	" №2			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	0	0	2	1	0	0	0	0	1	5	6.94	
2	0	1	1	3	1	2	1	0	5	1	15	20.83	
3	0	0	2	0	2	1	2	0	1	6	14	19.45	
4	0	2	3	0	2	0	6	0	0	3	16	22.22	
5	0	0	5	0	0	0	0	0	1	2	8	11.11	
6	0	0	3	0	0	0	1	0	0	0	4	5.56	
7	0	2	6	2	0	0	0	0	0	0	10	13.89	
計	1	5	20	7	6	3	10	0	7	13	72	100.00	

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるイタジイ胸高直径分布表 (100m²)

調査地 胸高直径	令婦仁村			本 部 町					名 護 市		計	比 率
	乙羽岳 No.1	" No.2	" No.3	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味 No.1	" No.2	安和 No.1	" No.2		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	1	0	0	8	7	0	0	1	15	33	8.78
2	3	3	0	0	6	5	3	0	2	35	57	15.16
3	3	0	0	0	4	5	0	0	0	23	41	10.90
4	0	3	0	0	8	1	0	0	6	30	48	12.77
5	1	2	0	0	8	2	0	0	7	16	36	9.58
6	0	1	0	0	9	2	1	0	9	5	27	7.18
7	1	3	0	0	9	1	0	0	0	7	21	5.59
8	0	2	0	0	4	3	0	0	7	3	19	5.05
9	0	3	0	0	8	3	0	0	4	1	19	5.05
10	0	0	0	0	5	1	1	0	1	1	9	2.39
11	0	2	0	0	3	0	0	0	1	0	6	1.60
12	1	2	0	0	4	1	1	0	3	0	12	3.19
13	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.27
14	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	4	1.06
15	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.27
16	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	4	1.06
17	1	4	0	0	1	0	1	0	0	0	7	1.86
18	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0.55
19	0	1	0	0	0	0	4	0	0	0	5	1.33
20	0	2	0	0	0	1	1	0	0	0	4	1.06
21	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	4	1.06
22	3	0	0	0	0	0	1	0	0	0	4	1.06
23	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.27
24	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0.53
26	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.27
27	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1.06
30	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0.80
32	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.27
計	25	32	1	0	79	35	19	1	47	156	376	100.00

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるイシニ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今帰仁村			本部町					名護市		計	比率
	乙羽岳	"	"	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味	"	安和	"		
	No.1	No.2	No.3	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	0	1	2	1	0	0	0	0	1	5	4.81
2	0	0	2	2	3	1	9	0	1	0	18	17.31
3	0	0	2	3	0	0	7	0	0	0	12	11.54
4	0	0	5	6	1	0	1	0	1	0	14	13.46
5	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1.92
6	0	0	2	2	0	0	0	0	1	2	7	6.73
7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	1.92
8	0	0	4	2	1	0	0	0	2	0	9	8.66
9	0	0	3	2	0	0	0	0	0	0	5	4.81
10	0	0	3	1	2	0	0	0	0	0	6	5.77
11	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	1.92
12	0	0	2	1	1	0	0	0	0	1	5	4.81
13	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	3	2.89
14	0	0	1	0	0	2	0	2	0	0	5	4.81
15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96
16	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96
17	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	2	1.92
19	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96
20	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96
21	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0.96
31	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	1.92
計	0	0	28	26	9	3	17	10	7	4	104	100.00

第5-15表 本部半島非石灰岩質母材照葉二次林内におけるコバンモチ胸高直径分布表

調査地 胸高直径	今帰仁村			本部町					名護市		計	比率
	乙羽岳	"	"	大当原	喜納原	八重岳	伊豆味	"	安和	"		
	No.1	No.2	No.3	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)		
(cm)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	0	1	4	1	1	0	0	5	3	16	22.22
2	0	1	2	1	3	2	3	0	1	5	18	25.00
3	0	2	2	0	2	0	5	0	1	3	15	20.83
4	0	0	3	0	0	0	0	0	0	2	5	6.94
5	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	4	5.56
6	0	1	2	0	0	0	2	0	0	0	5	6.94
7	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2.78
8	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2.78
9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1.39
10	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2.78
13	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2.78
計	1	5	20	7	6	3	10	0	7	13	72	100.00

(3) 本部半島地域の松林

① 石灰岩質母材の松林

第5-16表は、本部半島石灰岩質母材の天然生松林について、個体密度と胸高直径階級別の分布を示したものである。この表からして、分布の高い階層は8cmの7.95%、6cmの7.39%、13cmの7.39%、5cmの6.25%、7cmの6.25%となり、5cmから13cmの階層が全体の53.97%を占めている。また、最大直径は山川の32cmで、この林分は20年から25年生である。

第5-16表 本部半島石灰岩質母材における松林胸高直径分布表

(100㎡)

調査地 胸高直径	本 部 町										計	比 率
	大当原 No.1	大当原 No.2	伊野波 No.1	伊野波 No.2	野原 No.1	野原 No.2	山川 No.1	山川 No.2	石川 No.1	石川 No.2		
2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	2	1.14
3	0	1	0	1	1	0	0	0	0	2	5	2.84
4	0	5	0	0	0	1	0	0	0	1	7	3.96
5	0	4	1	1	1	1	0	0	1	2	11	6.25
6	1	6	1	0	4	0	0	0	1	0	13	7.39
7	0	4	1	2	1	1	0	0	1	1	11	6.25
8	4	5	1	1	1	0	1	0	1	0	14	7.95
9	1	4	0	2	0	0	0	0	0	1	8	4.54
10	0	2	6	0	3	1	0	0	1	0	13	7.39
11	0	2	0	0	0	2	0	0	1	0	5	2.84
12	1	1	2	1	2	0	0	0	0	1	8	4.54
13	1	1	6	2	0	0	0	0	0	2	12	6.82
14	1	2	0	1	0	1	0	2	1	1	9	5.11
15	2	2	0	0	1	2	0	0	0	3	10	5.68
16	0	0	0	2	0	2	0	0	1	0	5	2.84
17	0	0	0	1	0	2	0	1	4	2	10	5.68
18	2	1	0	2	1	0	0	1	2	1	10	5.68
19	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	2	1.14
20	0	0	0	2	2	1	0	1	0	0	6	3.41
21	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	1.14
24	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	3	1.70
25	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4	2.27
26	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1.14
27	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0.57
29	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.57
30	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.57
32	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0.57
計	13	41	18	13	21	16	8	8	16	17	176	100.00

第5-17表は、本部半島石灰岩質母材の天然生松林について樹高階の分布を示したものである。この表からして、最っとも出現率の高い階層は6mの33.53%である。特に本部地域の石灰岩質母材の場合は、4mから8mのクラスに集中し、全体の72.74%という出現率を示している。ただ、本部町山川一帯の松林では13mの高樹をもつ林もあるが、本部半島石灰岩質母材の松林をみた場合、一般的に樹高が低く傘型の樹型をした個体が多い。このことは土壤による影響が大きいと推察される。

第5-17表 本部半島石灰岩質母材における松林樹高分布表

(100 m²)

調査地 樹高	本 部 町										帯	比 率	
	大 当 原 原1	大 当 原 原2	伊 野 波 原1	伊 野 波 原2	野 原 原1	野 原 原2	山 川 原1	山 川 原2	石 川 原1	石 川 原2			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
2	0	3	0	0	0	0	0	0	1	1	5	2.94	
3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	1	4	2.27	
4	0	7	0	1	2	0	0	0	5	3	18	10.23	
5	0	14	1	0	3	2	0	0	0	4	24	13.64	
6	9	15	10	7	4	2	1	0	8	3	59	33.53	
7	3	1	4	4	5	1	0	2	2	5	27	15.34	
8	0	0	3	1	3	3	0	1	0	0	11	6.25	
9	0	0	0	4	4	5	0	3	0	0	16	9.09	
10	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3	1.70	
11	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1.14	
12	0	0	0	0	0	0	1	2	0	0	3	1.70	
13	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	4	2.27	
計	13	41	18	18	21	16	8	8	16	17	176	100.00	

第5-18表は、本部半島石灰岩質母材における天然生松林の組成表である。この表からして、石灰岩質母材の松林には下木としてゲッキツが高い密度で分布している。特にこの地域においては石灰岩特有の樹種（ガジュマル、イヌビワ、ハマイヌビワ、クスノハカエデ、ブクマンギ、アコウ）が岩にだけつき、見るからに石灰岩特有の松林を呈している。

第5-18表 本部半島石灰岩質母材における松林組成表

調査地 樹種名	本 部 町										平均優占度	頻 度
	大当原 No.1	大当原 No.2	伊野波 No.1	伊野波 No.2	野原 No.1	野原 No.2	山川 No.1	山川 No.2	石川 No.1	石川 No.2		
リュウキュウマツ	5	5	5	5	5	5	5	4	5	5	4.9	100
ゲ ッ キ ツ	+	+	3	+	+	+	3	2	3	3	1.7	100
イ ス ノ キ	0	0	0	+	0	3	0	0	0	0	+	20
ク チ ナ シ	+	+	+	0	+	2	0	+	0	0	+	60
シマイズセンリョウ	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	+	10
ヤブニッケイ	1	+	0	+	+	+	0	2	0	0	+	60
ト ベ ラ	+	+	1	+	+	+	+	+	0	0	+	80
クワノハエノキ	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	+	10
セ ン ダ ン	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	+	20
イ ヌ ビ ワ	1	+	0	+	+	1	0	0	0	0	+	50
ハマイヌビワ	0	0	0	0	0	+	+	1	0	0	+	50
ハマビワ	+	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	30
シ マ グ ワ	0	0	0	0	0	0	1	+	0	0	+	20
シイクワシャー	0	0	1	0	0	+	+	+	0	0	+	40
クスノハカエデ	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	+	10
シ マ タ ゴ	+	1	0	0	0	0	0	0	0	0	+	20
サンゴジュ	0	0	0	+	0	+	0	0	0	0	+	10
ヒイランシャリンバイ	+	+	0	+	+	+	0	0	0	0	+	50
オオシマコバンノキ	0	0	+	+	+	0	0	0	0	0	+	30
ガジュマル	+	0	0	0	0	0	+	+	0	0	+	30
クスノハガシワ	0	0	+	0	0	0	+	0	0	0	+	20
フクマンギ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
ア コ ウ	+	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	20
ハマセندان	0	0	+	0	0	0	0	0	0	0	+	10
ハゼノキ	0	+	0	+	0	+	0	0	0	0	+	30
ヒサカキ	0	0	0	0	+	+	0	0	0	0	+	20
カンコノキ	0	0	0	0	+	+	0	0	0	0	+	20
タ ブ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
リュウキュウクロウメモドキ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
アカメガシワ	+	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	20
コクテング	0	+	0	0	0	0	0	0	0	0	+	10
マ サ キ	0	0	0	0	+	0	0	0	0	0	+	10
クスノキ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
ギョクシンカ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10
ホルトノキ	0	0	0	0	0	+	0	0	0	0	+	10

5……1/2以上を占める。 4……1/4以上を占める。 3……1/8以上を占める。
 2……1/16以上を占める。 1……1/16以下を占める。 +……1の半分以下を占める。

第5-19表は、本部半島石灰岩質母材における天然生松林のha当りの樹種構成と、各樹種の平均樹高、平均胸高直径を各方形区から算出して示したものである。この表からして、石灰岩質母材の天然生松林における各樹種の出現はリュウキュウマツが33.98%、グッキツ18.15%、クチナシ7.14%、イスノキ5.60%、シマイズセンリョウ5.40%、トベラ5.40%、イヌビワ4.25%、ヤブニッケイ3.47%、ヒランヤリシ1.74%、シマグワ1.54%、オオシマコバンノキ1.35%、ハマビワ1.16%という率で構成されている。また、ha当りの立木本数は5,180本で、主林木のリュウキュウマツは1,760本と植生密度の低い林である。なお、平均樹高においてはリュウキュウマツが6.41m、グッキツ2.01m、クチナシ1.95m、イスノキ3.52m、シマイズセンリョウ2.21m、トベラ1.64mと殆んどの樹種がリュウキュウマツの下木として生育している。

第5-19表 本部半島石灰岩質母材における松林構成表

樹 種 名	ha 当り 本 数 (本)	本 数 率 (%)	平 均 樹 高 (m)	平 均 胸高直径 (cm)	胸 高 直 径 率 (%)
リュウキュウマツ	1,760	33.98	6.41	12.69	72.19
グ ッ キ ツ	940	18.15	2.01	2.43	7.74
ク チ ナ シ	370	7.14	1.95	1.65	2.07
イ ス ノ キ	290	5.60	3.52	2.51	3.36
シマイズセンリョウ	230	5.40	2.21	1.64	1.56
ト ベ ラ	280	5.40	1.64	1.54	1.46
イ ヌ ビ ワ	230	4.25	1.36	1.36	1.02
ヤブヒツケイ	180	3.47	2.50	2.50	1.53
ヒイランシャリンバイ	90	1.74	1.56	1.33	0.41
シ マ グ ワ	80	1.54	2.63	2.75	0.75
オオシマコバンノキ	70	1.35	1.57	1.43	0.34
ハ マ ビ ワ	60	1.16	3.50	3.67	0.75
クワノハエノキ	50	0.97	6.00	7.00	1.19
クスノハカエデ	50	0.97	3.20	4.00	0.68
ハ ゼ ノ キ	50	0.97	1.60	1.00	0.17
ハ マ イ ス ビ ワ	40	0.77	4.25	6.75	0.92
サ ャ ジ ュ	40	0.77	4.25	3.50	0.43
シ マ タ ゴ	40	0.77	3.25	3.50	0.43
ガ ジ ュ マ ル	40	0.77	2.50	2.25	0.50
セ ン グ ン	30	0.58	5.67	11.33	1.15
クスノハガシワ	20	0.39	3.50	3.50	0.24
フクマシギ	20	0.39	2.00	3.50	0.24
ア コ ウ	20	0.39	2.00	3.00	0.20
ヒ サ カ キ	20	0.39	2.00	2.00	0.14
カ ン ぼ ノ キ	20	0.39	1.50	1.50	0.10
タ ブ	20	0.39	1.00	1.00	0.07
アカメガシワ	20	0.39	1.00	1.00	0.07
ハマセندان	10	0.19	5.00	6.00	0.20
シイタワジャー	10	0.19	3.00	2.86	0.07
リュウキュウクロウメドキ	10	0.19	3.00	2.00	0.07
ク ス ノ キ	10	0.19	2.00	1.00	0.03
コクテンギ	10	0.19	1.00	1.00	0.03
マ サ キ	10	0.19	1.00	1.00	0.03
ギョクシンカ	10	0.19	1.00	1.00	0.03
ホルトノキ	10	0.19	1.00	1.00	0.03
計	5,180				

㊤ 非石灰岩質母材の松林

第5-20表は、本部半島非石灰岩質母材の天然生松林について個体密度と、胸高直径階級別の分布を示したものである。この表からして、分布の高い階層は3cmの11.57%、2cm11.19%、4cm10.82%という出現率を示し、4cm以下の細径木が全体の36.19%となっている。また、調査地域ごとにこの表を分析してみると、今帰仁村字平敷一帯、本部町字謝花一帯の松林は直径20cmから27cmの大径木が分布している。

第5-20表 本部半島非石灰岩質母材における松林胸高直径分布表

(100 m²)

調査地 胸高直径 (cm)	今帰仁村	本 部 町				名 護 市				計	比 率	
	平 敷	嘉 津 字	謝 花 No.1	謝 花 No.2	崎 本 部 No.1	崎 本 部 No.2	山 入 端	宇 茂 佐	林 試			北 区
	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	1	0	0	0	6	0	0	0	0	0	7	2.61
2	2	3	0	0	7	4	3	2	7	2	30	11.19
3	4	5	0	0	1	10	1	4	1	5	31	11.57
4	2	4	1	1	3	7	1	4	3	3	29	10.82
5	1	6	1	0	4	0	1	2	3	2	20	7.46
6	0	7	1	2	4	1	2	5	1	1	24	8.96
7	0	6	1	1	2	4	1	1	0	3	19	7.09
8	0	9	1	2	5	3	2	3	0	2	27	10.07
9	1	2	0	1	1	0	2	0	0	2	9	3.36
10	1	3	0	3	0	0	5	1	0	3	16	5.97
11	0	1	3	0	0	1	2	3	0	0	10	3.73
12	2	1	4	0	0	2	2	2	0	2	15	5.60
13	2	0	0	1	0	0	2	2	2	1	10	3.73
14	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.37
15	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1.12
16	0	0	2	1	0	0	1	0	1	0	5	1.87
17	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	0.75
18	1	0	0	2	0	0	0	0	0	0	3	1.12
20	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3	1.12
21	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.37
24	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0.75
27	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0.37
計	22	47	18	16	33	32	25	30	19	26	268	100.00

第5-21表は、本部半島非石灰岩質母材の天然生松林について、樹高階の分布を示したものである。この表からして、最も出現率の高い階層は4mの18.79%である。特にこの地域の樹高階層は3mから7mクラスに集中し、全体の74.03%という出現率を示している。また、石灰岩質母材の場合もこのクラスは75.01%という率を示している。本部半島地域の松林は石灰・非石灰岩質母材とも同型の樹高をもっているものと推察される。これは本部半島地域の天然性松林の分布する場所(地形、気象)が悪条件下にあるため、樹高成長に大きな影響を与えているものと思われる。

第5-21表 本部半島非石灰岩質母材における松林樹高分布表

調査地 樹高	今帰仁村	本部町					名護市				計	比率	
	平 敷	嘉津宇	謝花 No.1	謝花 No.2	崎本部 No.1	崎本部 No.2	山入 端	宇茂 佐	林 試	北 区			
(m)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(本)	(%)
1	0	2	0	0	4	0	0	0	0	0	6	2.24	
2	3	5	0	0	8	6	0	0	1	0	23	8.58	
3	6	6	0	0	4	13	2	1	5	8	45	16.79	
4	0	14	2	0	8	9	3	6	3	4	50	18.66	
5	3	16	2	0	9	4	1	4	5	5	46	17.17	
6	8	4	1	1	0	0	1	11	1	8	30	11.19	
7	1	0	5	0	0	0	7	5	3	1	29	10.82	
8	0	0	6	5	0	0	6	3	1	0	22	8.21	
9	0	0	2	2	0	0	5	0	0	0	9	3.36	
10	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0.37	
13	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	4	1.49	
14	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	1.12	
計	22	47	18	16	53	32	25	30	19	26	268	100.00	

第5-22表は、本部半島非石灰岩質母材における天然生松林の組成表である。この表からして、今帰仁村字平敷一帯の松林には9種、本部町謝花No.2一帯は12種、崎本部一帯は9種、名護市山入端一帯は22種、宇茂佐一帯15種、北区一帯18種の広葉樹が、リュウキュウマツの下木として分布している。また、本部町嘉津宇、謝花No.1一帯では下層植生がなく、リュウキュウマツの単純林である。なお、この組成表でも明らかなように、非石灰岩質母材のリュウキュウマツ林ではイジュ、ナカハラクロキの優占度が高いが、本部町地域においてはイジュの出現は殆どない。これは、広葉樹林を極度の伐採によってリュウキュウマツが侵入し、その落葉層を燃料として採集したため、下層木の生育ができずリュウキュウマツの単純林となっている。この型の林は、沖縄本島中南部、宮古島においても見ることが出来る。

第5-22表 本部半島非石灰岩質母材における松林組成表

(100m²)

調査地 樹種名	今帰仁	本部町				名護市				平均 優占 度	頻 度	
	平 数	嘉 津 宇	謝 花 版1	謝 花 版2	崎 本 部 版1	崎 本 部 版2	山 入 端	宇 茂 佐	林 試 区			北 区
リュウキュウマツ	5	5	5	4	5	5	4	4	4	4	4.5	100
イジユキ	0	0	0	0	0	0	3	4	3	3	1.3	40
ナカハラクロキ	2	0	0	3	0	2	3	+	1	2	1.4	70
ヒメユズリハ	0	0	0	0	0	+	1	2	2	1	0.7	50
クチナシ	+	0	0	3	0	+	+	+	+	+	+	60
コバンモチ	+	0	0	2	0	0	+	1	1	1	0.6	60
ヒサカキ	+	0	0	0	3	1	+	0	+	0	0.6	50
ギイマ	+	0	0	0	2	2	+	+	+	+	0.7	70
ヒイランシャリンバイ	+	0	0	0	2	1	+	+	0	0	+	50
ヤマモモ	+	0	0	0	0	0	1	0	+	1	+	40
ハクサシボク	+	0	0	0	0	0	+	1	2	0	+	40
アデク	0	0	0	0	1	+	+	+	+	0	+	50
タブ	0	0	0	+	+	0	+	+	0	+	+	50
ナガバインツゲ	0	0	0	0	0	0	0	0	+	1	+	20
イヌマキ	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	+	10
トベラ	0	0	0	+	0	0	+	0	+	0	+	30
ヤブニッケイ	0	0	0	+	0	0	+	0	0	0	+	20
シバニッケイ	0	0	0	0	+	0	0	0	1	0	+	20
ゴンズイ	0	0	0	0	+	+	0	0	+	0	+	30
オオシイバモチ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
エゴノキ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
カンコノキ	0	0	0	0	0	+	0	+	+	+	+	40
ボチウジ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
モチノキ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
イヌビワ	0	0	0	+	0	0	+	0	0	0	+	20
シマイヌツゲ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
トキワガキ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	0	+	10
カクレミノ	+	0	0	+	0	0	0	0	+	0	+	30
ホルトノキ	0	0	0	+	0	0	+	0	0	0	+	20
リュウキュウクロウメモ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10
フカノキ	0	0	0	+	0	0	0	0	0	0	+	10
ヤマヒハツ	0	0	0	0	0	0	0	+	0	+	+	20
タイミンタチバナ	0	0	0	0	0	0	0	+	+	0	+	20
オキナワイボタ	0	0	0	0	0	0	+	0	+	0	+	20
ネズミモチ	0	0	0	0	0	0	+	0	0	0	+	10

5……1/2以上を占める。 4……1/4以上を占める。 3……1/8以上を占める。
 2……1/16以上を占める。 1……1/16以下を占める。 +……1の半分以下を占める。

第5 23表は、本部半島非石灰岩質母材における天然生松林のha当り樹種構成と、各樹種の平均樹高、平均胸高直径を各方形区から算出して示したものである。この表からして、非石灰岩質母材の天然生松林における各樹種の出現は、主林木のリュウキュウマツが25.87%、イジュ15.06%、ナカハラクロキ10.13%、クチナシ7.34%、ヒメユズリハ6.56%、ギイマ5.69%、ヒサカキ5.50%、ヒイランシャリンバイ3.67%、コバンモチ3.09%、アデク2.70%、ハクサンボク2.61%、ナガバイヌツゲ1.54%、トベラ1.35%、ヤマモモ1.16%、タブ1.06%という率で構成されている。また、ha当りの立木本数は10,360本でリュウキュウマツ2,680本となっている。特に本部半島地域の松林には石灰岩質母材と非石灰岩質母材の二型があるが、非石灰岩質母材の場合は石灰岩質母材に比較し、2倍の本数密度となっている。平均樹高においては、リュウキュウマツが5.03m、イジュ5.41m、ナカハラクロキ2.96mと殆んどの樹種がリュウキュウマツの下木として生育している。

第5 23表 本部半島非石灰岩頁母材における松林構成表

樹 種 名	ha 当り 本 数	本 数 率	平 均 樹 高	平 均 胸高直径	胸 高 直 径 率
	(本)	(%)	(m)	(cm)	(%)
リュウキュウマツ	2,680	25.87	5.08	7.14	54.22
イ シ ュ	1,560	15.06	3.41	3.10	13.69
ナカハラクロキ	1,050	10.13	2.96	2.67	7.94
ク チ ナ シ	760	7.34	2.01	1.43	3.09
ヒメユズリハ	680	6.56	2.18	1.66	3.20
ギ イ マ	590	5.69	1.32	1.05	1.76
ヒサカキ	570	5.50	1.32	1.11	1.78
ヒイランシャリンバイ	380	3.67	1.63	1.53	1.64
コバンモチ	320	3.09	3.22	3.00	2.72
アデク	280	2.70	1.93	1.43	1.13
ハクサンボク	270	2.61	2.74	1.63	1.25
ナガバインツゲ	160	1.54	1.56	1.55	0.71
トベラ	140	1.35	2.21	1.50	0.59
ヤマモモ	120	1.16	3.41	4.33	1.47
タブ	110	1.06	3.55	3.27	1.02
イヌマキ	90	0.87	3.33	2.56	0.65
ボチウジ	80	0.77	1.38	1.00	0.23
ゴンズイ	70	0.68	1.57	1.43	0.28
ヤブニッケイ	50	0.48	3.40	3.60	0.51
カンコノキ	50	0.48	1.60	1.60	0.23
シバニッケイ	40	0.39	2.75	3.50	0.40
シマイヌツゲ	40	0.39	1.50	1.00	0.11
イヌビワ	40	0.39	1.25	1.00	0.11
カクレミノ	30	0.29	1.33	1.67	0.14
オキナワイボタ	30	0.29	2.00	1.00	0.09
ホルトノキ	30	0.29	1.67	1.00	0.09
オオシイバモチ	20	0.19	3.50	5.00	0.03
モチノキ	20	0.19	4.00	3.00	0.17
フカノキ	20	0.19	2.50	1.50	0.09
ヤブヒハツ	20	0.19	2.00	1.00	0.06
タイミンタチバナ	20	0.19	1.00	1.00	0.06
エゴノキ	10	0.10	7.00	10.00	0.28
トキワカキ	10	0.10	5.00	4.00	0.11
リュウキュウクロウメモドキ	10	0.10	4.00	3.00	0.09
ネズミモチ	10	0.10	3.00	2.00	0.06
計	10,340				

(4) 本部半島地域のギンゴウカン林

第5-24表は、本部半島（北里飛行場跡地）ギンゴウカン林の胸高直径別による本数分布を示したものである。この表からして、本部町北里飛行場跡地一帯におけるギンゴウカンの直径分布は、1.5 cmが23.17%、2.0 cm 22.49%、2.5 cm 18.01%、3.0 cm 12.99%、3.5 cm 10.37%という順になり、1.0 cmから3.0 cmの径級に集中している。最っとも大きいのは5.5 cmで、全体の0.11%で谷間の肥沃地に分布するだけである。また、平均樹高についてはPlot No 1が5.0 m、No 2が4.0 m、No 3が3 m、No 4が4 m、No 5が5.5 mで、全体の平均樹高は4.3 mとなっている。

第5-24表 本部半島（北里飛行場跡地）ギンゴウカン林胸高直径別本数分布表
(各方形区25㎡)

胸高直径 (cm)	方形区 平均樹高					計	比率
	No. 1 5.0m	No. 2 4.0m	No. 3 3.0m	No. 4 4.0m	No. 5 5.5m		
1.0	7	17	46	44	5	119	12.99
1.5	43	67	69	58	21	258	23.17
2.0	31	58	48	41	28	206	22.49
2.5	36	37	24	45	23	165	18.01
3.0	23	9	9	23	31	95	10.37
3.5	7	3	5	6	22	43	4.69
4.0	3	0	1	4	8	16	1.75
4.5	2	0	0	0	10	12	1.31
5.0	0	0	0	1	0	1	0.11
5.5	0	0	0	0	1	1	0.11
計	152	151	202	222	149	916	100.00
種 類	188	370	332	159	230	1,279	—

6 本部半島地域の極相

本部半島地域森林の群落構造でも述べた通り、この地域の極相林は景観的に石灰岩質母材の照葉林、滝沢林、紅樹林の三つの森林型に分けることができるが、今回は照葉林と照葉二次林の安定状態を知るため調査を行った。その結果を分析してみると次のとおりである。

(1) 石灰岩質母材の照葉林

この母材に成立する森林の極相は第5-3表でも明らかなように、リュウキユウガキ、クスノハカエデ、ヤブニッケイ、リュウキユウハリギリなどの常緑広葉樹と落葉広葉樹がおもな気候的、土壌的極相として認められる。これを第5-1表で分析してみると、今帰仁村字諸志、東上原、本部町、具志堅一帯に小面積ながら点在する。照葉林はやや安定した極相林といえるが、本部町字具志堅の場合は不安定で、今後の保護が必要である。

樹高直径 (D × B × H) 樹冠直径 100 cm 以上 樹冠直径 80 cm 以上 樹冠直径 60 cm 以下

樹位	諸志麻1		諸志麻2		諸志麻3		諸志麻4		諸志麻5		諸志麻6		東上原麻1		東上原麻2		東上原麻3		本 部 町		
	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	
高	リュウキユウガキ	2	リュウキユウガキ	3	リュウキユウガキ	4	リュウキユウガキ	5	リュウキユウガキ	4	リュウキユウガキ	6	リュウキユウガキ	2	クスノハカエデ	8	ホルトノキ	4	ハゼノキ	3	
中	ア カギ	1	クスノハカエデ	2	ヤブニッケイ	1	ヤブニッケイ	2	ヤブニッケイ	2	リュウキユウガキ	1	クスノハカエデ	2	リュウキユウガキ	3	クスノハカエデ	1	ヤブニッケイ	1	
木	クスノハカエデ	1	リュウキユウガキ	2	ア カギ	1	クスノハカエデ	1	ヤブニッケイ	1	ヤブニッケイ	1	ヤブニッケイ	1	イヌガシ	1	イヌガシ	1	リュウキユウガキ	1	ハゼノキ
低	リュウキユウガキ	7	リュウキユウガキ	22	リュウキユウガキ	19	リュウキユウガキ	22	リュウキユウガキ	9	リュウキユウガキ	23	クスノハカエデ	9	クスノハカエデ	10	クスノハカエデ	6	ハゼノキ	6	
木	ヤブニッケイ	2	ヤブニッケイ	2	イヌノキ	11	ヤブニッケイ	1	ヤブニッケイ	2	ヤブニッケイ	2	リュウキユウガキ	3	リュウキユウガキ	7	リュウキユウガキ	4	クスノハカエデ	4	
					クスノハカエデ	4									イヌガシ	2	イヌガシ	2	リュウキユウガキ	3	
高	リュウキユウガキ	2	リュウキユウガキ	3	リュウキユウガキ	12	リュウキユウガキ	14	リュウキユウガキ	12	リュウキユウガキ	13	クスノハカエデ	2	リュウキユウガキ	2	リュウキユウガキ	6	クスノハカエデ	6	
中																					
木						5															
低	リュウキユウガキ		リュウキユウガキ		リュウキユウガキ		リュウキユウガキ		リュウキユウガキ		リュウキユウガキ		ヤブニッケイ		ヤブニッケイ		クスノハカエデ		クスノハカエデ		
木	ヤブニッケイ		ヤブニッケイ		ヤブニッケイ		ヤブニッケイ		ヤブニッケイ		リュウキユウガキ		ヤブニッケイ		リュウキユウガキ		イヌガシ		リュウキユウガキ		
高																					
中																					
木																					
低																					

② 石炭岩質母材の照葉二次林

この型の森林は本郡半島地域の大半を占めるので、これらの分布状態をみるため図6-1-2を基で分析してみようと、本郡町字大当原、名護市山入端系1、嘉津字岳系1、今帰仁村字基城系2、乙羽系2、名護市字嘉津字岳系2、山入端系2、今帰仁村乙羽系1、名護市嘉津字岳系3、今帰仁村字基城系1の順に分析した産相林といえるが、嘉津系1は人為的かく阻が激しく、今後減水および草

原に移行する可能性が必る。

図6-1-2表

石炭岩質母材における照葉二次林発達調査表

(密度は100㎡あたりの本数)

駒高直径 (D・B・H) 高木……8cm以上 灌木6~2cm 雜木……2cm以下

順	本郡町	名護市		今帰仁村		今帰仁村		名護市		今帰仁村		今帰仁村		今帰仁村			
		大崎系	山入端系1	嘉津字岳系1	乙羽系2	乙羽系2	嘉津字岳系2	出入系2	乙羽系1	嘉津字岳系3	玉城系1	密度	種	種	種	種	
高	1	ヤブニッケイ	5	ヤブニッケイ	5	イヌノキ	2	イヌノキ	17	タ	ブ	4	サンゴジュ	15	イシ	3	
中	2	イヌノキ	2	クスノハカエデ	3	クスノハカエデ	2	サンゴジュ	7	ヒメユズリハ	3	イヌノキ	3	イヌノキ	4	クスノキ	3
低	3	クスノハカエデ	2	リュウキウガキ	2	ヤブニッケイ	1	ヤブニッケイ		ヤブニッケイ	1		ヤブニッケイ	2	タ	1	
高	1	イヌノキ	32	ヤブニッケイ	11	イヌノキ	34	イヌノキ	32	ヤブニッケイ	20	イヌノキ	26	イヌノキ	10	サンゴジュ	15
中	2	ヤブニッケイ	5	イヌノキ	6	クスノハカエデ	9	サンゴジュ	2	ヒメユズリハ	24	タ	9	サンゴジュ	5	タ	4
低	3	クスノハカエデ	1	クスノハカエデ	2	リュウキウガキ	9	ヤブニッケイ	1	タ	2	クスノハカエデ	5	ヤブニッケイ	2	クスノキ	3
高	1	イヌノキ	4	イヌノキ	2	イヌノキ	25	ヤブニッケイ	6	ヤブニッケイ	3	イヌノキ	2	ヤブニッケイ	9		
中	2			ヤブニッケイ		クスノハカエデ	4										
低	3			クスノハカエデ													
高	1	ヤブニッケイ		イヌノキ		イヌノキ		イヌノキ		ヤブニッケイ				サンゴジュ			
中	2	イヌノキ						ヤブニッケイ									
低	3	クスノハカエデ						サンゴジュ									

(9) 非石灰質母材の関東二次林

この年の森林は本郡半島の東海岸に分布し、北部地域の盛田と同じ型である。これが安定状態をみるため、第6-3表で分析してみると、本郡西郷村、八戸岳、名護市安和系1、安和系2、今帰仁村乙羽系2、乙羽系1、本郡伊豆味系1、今帰仁村乙羽系3、本郡大当原、伊豆味系2の真に安定した雑種林といえるが、乙羽系3、大当原、伊豆味系2の地域はまだ乙羽系が無く、イシヤ、コバンモンモチ林に移行しつつある。

第6-3表

非石灰質母材における照葉二次林発達調査表

胸高直径 (D・B・H)

(密度は100㎡あたり本数)

高木……8cm以上
低木……8~2cm
稚樹……2cm以下

順位	本郡 原		本郡 町		本郡 岳		安和系1		名護市		今帰仁村		今帰仁村		本郡 町		今帰仁村		本郡 町		本郡 町	
	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度	種	密度
高	1	イタシイ	27	イタシイ	12	イタシイ	16	イタシイ	5	イタシイ	19	イタシイ	17	イタシイ	15	イタシイ	14	イタシイ	10	イタシイ	イタシイ	10
	2	イシヤ	4	イシヤ	2	イシヤ	3	イシヤ	1	イシヤ	5	イシヤ	3	イシヤ	4	イシヤ	4	イシヤ	2	イシヤ	イタシイ	1
木	3	イタシイ	タ	イモチノキ	1	イモチノキ	3	イモチノキ	3	イモチノキ	2	イモチノキ	2	イモチノキ	3	イモチノキ	3	イモチノキ	1	イモチノキ	イモチノキ	1
低	1	イタシイ	44	イタシイ	16	イタシイ	30	イタシイ	11	イタシイ	12	イタシイ	17	イタシイ	17	イタシイ	15	イタシイ	14	イタシイ	イタシイ	10
	2	イタシイ	9	イタシイ	8	イタシイ	11	イタシイ	10	イタシイ	6	イタシイ	6	イタシイ	10	イタシイ	13	イタシイ	2	イタシイ	イタシイ	2
木	3	イタシイ	5	イタシイ	4	イタシイ	4	イタシイ	4	イタシイ	4	イタシイ	5	イタシイ	4	イタシイ	8	イタシイ	1	イタシイ	イタシイ	1
稚	1	イタシイ	9	イタシイ	7	イタシイ	12	イタシイ	16	イタシイ	17	イタシイ	67	イタシイ	18	イタシイ	8	イタシイ	11	イタシイ	イタシイ	5
	2	イタシイ	8	イタシイ	7	イタシイ	8	イタシイ	15	イタシイ	2	イタシイ	3	イタシイ	3	イタシイ	4	イタシイ	4	イタシイ	イタシイ	4
樹	3	イタシイ	6	イタシイ	6	イタシイ	5	イタシイ	7	イタシイ	2	イタシイ	2	イタシイ	2	イタシイ	2	イタシイ	2	イタシイ	イタシイ	2
生	1	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ
	2	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ
	3	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ	イタシイ

7 本部半島地域の森林における材積

本部半島地域の植生分類体系を極相林（照葉林、海欅林、紅樹林）、二次植物社会（照葉樹二次林、松林、竹林、草原、耕地群落、モクマオウ林、灌木林）に区分して調査したが、材積は照葉林、照葉樹二次林、松林に重点をおいた。調査対象は、胸高直径1 cm以上の個体とした。

(1) 石灰岩質母材の照葉林

第7-1表は、各方形調査区からha当りの材積を算出したものである。この表で示すとおり、本部半島地域の照葉林はha当り材積が406.938 m³で、北部地域における照葉林の約4倍の材積である。この照葉林は社寺林のため伐採することなく、数百年生の樹木で構成されている。

第7-1表 石灰岩質母材の照葉林におけるha当り樹種別材積

樹種	材積 m ³	比率 %	樹種	材積 m ³	比率 %
リュウキュウガキ	18.495	4.54	オキナワキョウチクトウ	3.912	0.96
シシアクチ	13.365	3.28	タブ	0.637	0.16
リミノキ	0.205	0.05	シマトネリコ	11.643	2.86
タミモドキ	0.095	0.02	フカノキ	7.538	1.86
チヨウジ	4.773	1.17	シロダモ	2.297	0.56
クスノハカエデ	79.143	19.45	リュウキュウモクセイ	4.095	1.01
カテツ	0.362	0.09	オオバギ	1.447	0.36
ヨシイバモチ	18.581	4.57	ヒメユズリハ	0.263	0.06
ハマビワ	0.663	0.16	アカギ	25.717	6.56
ブニッケイ	13.563	3.33	ヒランジャリンバイ	1.378	0.33
リュウキュウハリギリ	49.556	12.19	ナカハラクロキ	0.977	0.24
フクギ	4.205	1.03	ハマイヌビワ	0.243	0.06
イスノキ	0.539	0.13	クワノハエノキ	0.122	0.03
イヌガシ	5.509	1.35	バクチノキ	0.050	0.01
カツキツ	3.994	0.98	マルミボチヨウジ	0.016	0.00
クダチバナ	6.359	1.56	シイクワジャー	0.007	0.00
クスノハガシワ	0.751	0.18	ガジュマル	0.111	0.02
トベラ	1.797	0.44	ホソバムタイヌビワ	9.899	2.43
シロルリミノキ	0.045	0.01	リュウキュウコクタン	1.625	0.40
ハゼノキ	28.528	7.01	センダン	1.143	0.28
チナシ	0.661	0.16	リュウキュウクロウメドキ	0.149	0.03
ショウベンノキ	0.419	0.10	イヌマキ	0.001	0.00
ナガミボチヨウジ	0.139	0.03	フトモモ	0.005	0.00
キングイヌビワ	12.822	3.15	カキバカンコノキ	0.005	0.00
ギョクシンカ	0.046	0.01	カクレミノ	0.001	0.00
ホルトノキ	52.728	12.96	計	406.938	100.00
シマダゴ	15.366	3.86			

(2) 石灰岩質母材の照葉樹二次林

第7-2表は、石灰岩質母材の照葉樹二次林を各方形調査区からha当りの材積を算出したものである。この表で示すとおり、ha当り材積は102,476 m³で、その55%はイスノキ、ヤブニッケイ、サンゴジュ、ホルトノキで占めている。

第7-2表 石灰岩質母材の照葉樹二次林におけるha当り樹種別材積

樹種	材積 (m ³)	比率 (%)	樹種	材積 (m ³)	比率 (%)
イスノキ	18,535	18.09	モクマオウ	4,510	4.40
ヤブニッケイ	12,953	12.64	アカメガシワ	0,296	0.29
サンゴジュ	13,690	13.36	タイミンタチバナ	0,042	0.04
イヌビロ	1,704	1.66	ニガキ	1,554	1.52
ヒイランシャリンバイ	2,139	2.09	コバンモチ	0,981	0.96
リュウキュウクロウメモドキ	2,904	2.83	モチノキ	0,231	0.23
ヒメユズリハ	2,962	2.89	リュウキュウマツ	0,212	0.20
タブ	5,884	5.74	イヌガシ	0,169	0.17
クちなし	1,101	1.07	ツバキ	0,123	0.12
クスノハカエデ	2,240	2.19	カンコノキ	0,001	0.00
トベラ	1,656	1.62	モクダチバナ	0,001	0.00
シクワシャー	0,665	0.65	ルリミノキ	0,042	0.04
ボチウジ	0,053	0.05	ギイマ	0,001	0.00
ホルトノキ	10,391	10.14	イヌマキ	0,003	0.00
シマタゴ	4,631	4.52	ソウシジュ	1,591	1.55
ハゼノキ	0,332	0.32	エゴノキ	0,978	0.96
リュウキュウガギ	1,094	1.07	ハマイヌビロ	0,237	0.23
フカノキ	1,236	1.21	シバニッケイ	0,085	0.08
ヒサカキ	0,209	0.20	ツゲモドキ	0,010	0.01
シシアクチ	0,029	0.03	リュウキュウアオキ	0,010	0.01
アマミアラカシ	0,345	0.34	オオハマボウ	0,414	0.40
ハマビロ	0,482	0.47	センダン	0,401	0.39
ギョクシンカ	0,015	0.01	ヒカンザクラ	0,192	0.19
クスノキ	0,005	0.00	フヨウ	0,142	0.14
イジュ	1,781	1.74	オオバギ	0,167	0.16
オオシイバモチ	0,847	0.83	トキワガキ	0,111	0.11
ナカハラクロキ	0,831	0.81	ヤマモモ	0,094	0.09
ゲツキツ	0,338	0.33	チシヤノキ	0,067	0.07
カクレミノ	0,003	0.00	ナガバイヌツゲ	0,057	0.06
アデク	0,015	0.01	オオシマコバンノキ	0,035	0.03
クスノハガシワ	0,011	0.01	ネズミモチ	0,028	0.03
ショウベンノキ	0,293	0.29	バリバリノキ	0,015	0.02
リュウキュウモクセイ	0,209	0.20	オキナワシキミ	0,001	0.00
ゴンズイ	0,062	0.06	ハクサンボク	0,001	0.00
コウシュウヤク	0,022	0.02	ギョボク	0,001	0.00
オオバルリミノキ	0,006	0.01	計	102,476	100.00

(3) 非石灰岩質母材の照葉樹二次林

第7-3表は、非石灰岩質母材の照葉樹二次林を各方形調査区からha当りの材積を算出したものである。この表で示すとおり、ha当り材積は300.164 m³で、その63%はイタジイで占めている。

第7-3表 非石灰岩質母材の照葉二次林におけるha当り樹種別材積

樹 種	材 積 m ³	比 率 %	樹 種	材 積 m ³	比 率 %
イ タ ジ イ	137.619	63.76	ツ バ キ	0.023	0.01
イ ジ ユ	38.924	19.45	ア マ シ バ	0.079	0.04
コ バ ン モ チ	4.134	2.09	モ ク タ チ バ ナ	0.023	0.01
ナ カ ハ ラ ク ロ キ	3.037	1.52	イ ヌ ビ ワ	0.040	0.02
タ ブ	3.685	1.84	ヒ カ ン ザ ク ラ	0.969	0.48
タイミンタチバナ	0.280	0.14	オ オ シ イ バ モ チ	0.029	0.02
シ シ ア ク チ	0.127	0.06	ア デ ク	0.042	0.02
フ カ ノ キ	2.212	1.10	バ リ バ リ ノ キ	0.221	0.11
エ ゴ ノ キ	1.325	0.66	カ キ バ カ ン コ ノ キ	0.101	0.05
イ ヌ カ シ	0.464	0.23	ゴ ン ズ イ	0.077	0.04
ハ ク サ ン ボ ク	0.171	0.09	ク ス ノ ハ カ エ デ	0.021	0.01
ヒ サ カ キ	0.497	0.25	ボ チ ョ ウ ジ	0.009	0.00
シ マ ミ サ オ ノ キ	0.104	0.05	シ バ ニ ッ ケ イ	0.096	0.05
モ チ ノ キ	1.350	0.67	キ ン グ イ ヌ ビ ワ	0.070	0.04
リュウキュウガキ	0.579	0.29	カ ン コ ノ キ	0.133	0.07
カ ク レ ミ ノ	0.348	0.17	リュウキュウモクセイ	0.010	0.01
フ ト モ モ	1.005	0.50	シ ロ ミ ミ ズ	0.031	0.02
ヤ ブ ニ ッ ケ イ	0.141	0.07	オ オ ム ラ サ キ シ ン キ ブ	0.022	0.01
イ ス ノ キ	0.188	0.09	シ ョ ウ ベ ン ノ キ	0.012	0.01
ク チ ナ シ	0.043	0.02	キ イ ル ン カ ン コ ノ キ	0.107	0.05
ク ロ ガ ネ モ チ	0.330	0.16	シ マ タ ゴ	0.011	0.01
ソ ウ シ ジ ユ	3.440	1.71	ア カ ミ ズ キ	0.011	0.01
ト キ ワ ガ キ	0.716	0.36	ア カ ギ	0.001	0.00
サ ザ ン カ	0.043	0.02	オ キ ナ ワ ヒ サ カ キ	0.001	0.00
ヒ メ ユ ズ リ ハ	0.137	0.07	ギ ョ ク シ ン カ	0.003	0.00
ミ ミ ズ バ イ	0.349	0.17	オ キ ナ ワ ウ ラ ジ ロ ガ シ	0.015	0.01
ク ス ノ キ	0.458	0.23	ク ス ノ ハ ガ シ ワ	0.003	0.00
ホ ル ト ノ キ	1.374	0.67	ト バ ラ	0.002	0.00
ハ セ ノ キ	0.853	0.43	ル リ ミ ノ キ	0.002	0.00
ヒ イ ラ ン シ ャ リ ン バ イ	0.333	0.17	サ ン ゴ ジ ユ	0.005	0.00
サ ク ラ ツ ツ ジ	0.065	0.03	オ オ バ イ ヌ ビ ワ	0.010	0.01
ギ マ	0.157	0.08	ニ ッ ケ イ	0.001	0.00
ヒ サ カ キ サ ザ ン カ	1.076	0.54	ヤ マ ビ ワ	0.002	0.00
ホ ソ バ ム ク イ ヌ ビ ワ	0.273	0.14	ハ マ ヒ サ カ キ	0.001	0.00
ヤ マ モ モ	0.232	0.12	シ イ ク ト シ ャ ー	0.001	0.00
リュウキュウマツ	1.575	0.84	計	300.164	100.00

(4) 石灰岩質母材のリュウキュウマツ

第7-4表は、石灰岩質母材のリュウキュウマツ林を各方形調査区から、ha当りの材積を算出したものである。この表で示すとおり、ha当り材積は113.898 m³で、その91.37%がリュウキュウマツで他の8.63%は下木として構成する広葉樹である。

第7-4表 石灰岩質母材のリュウキュウマツ林における材積

樹 種	材 積 m ³	比 率 %	樹 種	材 積 m ³	比 率 %
リュウキュウマツ	104.065	91.37	ガ ジ ュ マ ル	0.060	0.05
ゲ ッ キ ツ	2.069	1.82	セ ン ダ ン	1.932	1.70
ク チ ナ シ	0.273	0.24	ク ス ノ ハ ガ シ ワ	0.050	0.04
イ ス ノ キ	1.393	1.22	フ ク マ ン ギ	0.065	0.06
シマイズセンリョウ	0.100	0.09	ア コ ウ	0.026	0.02
ト ベ ラ	0.123	0.11	ヒ サ カ キ	0.010	0.01
イ ス ビ ワ	0.153	0.16	カ ン コ ノ キ	0.006	0.00
ヤブニッケイ	0.619	0.54	タ ブ	0.010	0.01
ヒイランジャリンバイ	0.023	0.02	ア カ メ ガ シ ワ	0.002	0.00
シ マ グ ワ	0.117	0.10	ハ マ セ ン ダ ン	0.094	0.08
オオシマコバンノチ	0.025	0.02	シ ャ ク ワ ジ ャ ー	0.097	0.09
ハ マ ビ ワ	0.200	0.18	リュウキュウクロウメモドキ	0.006	0.00
クワノハエノキ	0.807	0.71	ク ス ノ キ	0.001	0.00
クスノハカエデ	0.384	0.34	コ ク テ ン ギ	0.001	0.00
ハ ゼ ノ キ	0.010	0.02	ア サ キ	0.001	0.00
ハ マ イ ス ビ ワ	0.812	0.71	ギ ョ ク シ ン カ	0.001	0.00
サ ン ゴ ジ ュ	0.160	0.14	ホ ル ト ノ キ	0.001	0.00
シ マ タ ゴ	0.172	0.15	計	113.898	100.00

(5) 非石灰岩質母材のリュウキュウマツ

第7-5表は、非石灰岩質母材のリュウキュウマツ林を各方形調査区からha当りの材積を算出したものである。この表で示すとおり、ha当り材積は73.109 m^3 で、その81.80%がリュウキュウマツで他の18.20%は下木として構成する広葉樹である。

第7-5表 非石灰岩質母材のリュウキュウマツ林における材積

樹種	材積 m^3	比率 %	樹種	材積 m^3	比率 %
リュウキュウマツ	59.803	81.80	ゴソズイ	0.025	0.03
イジュ	5.879	8.04	オオシイバモチ	0.173	0.24
ナカハラクロキ	2.016	2.76	エゴノキ	0.338	0.46
ヒメユズリハ	0.508	0.69	カンコノキ	0.059	0.08
クチナシ	0.259	0.35	ボチョウジ	0.008	0.01
コバンモチ	1.220	1.67	モチノキ	0.040	0.05
ヒサカキ	0.032	0.11	イヌビワ	0.004	0.01
ギイマ	0.073	0.10	シマイヌツゲ	0.004	0.01
ヒイランヤリンバイ	0.355	0.49	トキワガキ	0.043	0.06
ヤマモモ	0.885	1.21	カクレミノ	0.011	0.02
ハクサンボク	0.095	0.13	ホルトノキ	0.005	0.00
アデク	0.076	0.10	リュウキュウクロウメモドキ	0.015	0.02
タブ	0.376	0.51	フカキ	0.006	0.01
ナガバインツゲ	0.073	0.10	ヤマヒハツ	0.002	0.00
イヌマキ	0.277	0.38	タイミンタチバナ	0.003	0.00
トベラ	0.054	0.07	オキナワイボタ	0.002	0.00
ヤブニッケイ	0.270	0.37	ネズミモチ	0.005	0.01
シバニッケイ	0.059	0.12	計	73.109	100.00

8 摘要および考察

(1) 今回の調査は本部半島地域（名護市一部、本部町瀬底島を除く全地域）の森林、原野にレベルをあてて調査したが、前回の北部地域と同じく特定の地形（谷間、尾根、斜面）については今後の調査分析が必要である。

(2) この調査で本部半島地域の森林原野における植生の相鏡的タイプを把握することができたので、植生相鏡図を作成した。

(3) 本部半島地域の森林原野を植生分類体系によって次のように区分した。

① 極相林

本部半島地域の森林は景観および種類組成の面から照葉林、海浜林、紅樹林の三つの森林型に分けることができる。このうち照葉林は石灰岩質母材の気候的極相であり、他の二つの森林型は土壌的ないし地形的極相であると考えられる。この極相林はそれぞれ独自の組成および構造を有するが、相対的には海浜林と石灰岩質母材の照葉林は特に組成的なり以点が多い。紅樹林は極相

林中最つとも特殊的な形態を備えたものと考えられる。なお、この地域においては非石灰岩質母材の照葉林は出現しない。

㊦ 照葉林（石灰岩質母材）

アカギ、クスノハカエデ、ハマイヌビワ、リュウキュウガキ、ガジュマル、リュウキュウハリギリを優占とする石灰岩特有の森林である。

㊧ 海岸林

アダン、オオハマボウ、アカテツ、オキナワキョウチクトウ、ハスノハリ、クロヨナ、アコウ、ハマビワを優占とし、海岸近くに帯状で発達する。

㊨ 紅樹林（マングローブ林）

河川の河口や下流の塩沼地に発達し、二種類（メヒルギ、オヒルギ）の塩生植物で構成されている。

㊩ 二次植物社会

人為的工作によってできた森林型で、景観および種類組成の面から照葉樹二次林（石灰岩質母材、非石灰岩質母材）、松林（石灰岩質母材、非石灰岩質母材）、ソテツ林、灌木草原、モクマオウ林、竹林、耕地群落（石灰岩質母材、非石灰岩質母材）の8つの型に区分することができる。

㊪ 照葉樹二次林

本部半島の照葉樹二次林は、地質によって次のタイプに区分できる。

a. 石灰岩質母材の照葉樹二次林

伐採跡林でヤブニッケイ、クスノハカエデ、ホルトノキ、クスノハガシワ、シマタゴ、タブハマイヌビワ、ガジュマルを優占とする森林である。

b. 非石灰岩質母材の照葉樹二次林

イタジイ、コバンモチ、タブ、フカノキを優占とする森林型と、イジュ、ナカハラクロキ、エゴノキを優占とする森林型がある。

㊫ 松林

本部半島の松林は地質によって下層植生および景観を異にするもので、次のタイプに区分することができる。

a. 石灰岩質母材の松林

天然生林によるリュウキュウマツ林であるが、下木にグッキツ、イスノキ、ヤブニッケイ、トバラ、ハマビワ等の樹種が混入する石灰岩特有の松林である。

b. 非石灰岩質母材の松林

人工造林、天然生林からなるリュウキュウマツ林であるが、下木は殆んどなく、わずかにヒイランシャリンバイ、ハマヒサカキ等が混入する松林である。

㊬ ソテツ林

石灰岩質母材に出現し、他の樹木が侵入しがたい悪条件下で、熱帯特有の景観をもつソテツ林である。

㊦ ギンゴウカン林

珪球石灰岩質母材に出現し、ネムノキ属特有の景観をなし、他の樹木の侵入ができず、上層から下層までギンゴウカン一色の林である。

㊧ 灌木草原

カンコノキ、イスビワ、オオシマコパンノキ、クチナシ、ソテツ、サルカケミカン、クスノハカエデ、ツワブキ、リュウキュウヨモギ、キキョウラン、リュウキュウスダ、メドハギ、タマシダ等を優占とする石灰岩質母材特有の灌木草原である。

㊨ モクマオウ林

海岸砂地に帯状で発達するこの樹種は、防潮、防風林として、また海岸砂地帯の緑化用として広く造林されている。

㊩ 竹林

本部半島の竹林は、地質によって次のように住み分けしている。

a. 石灰岩質母材の竹林

タイミンチクを優占とする山林原野である。

b. 非石灰岩質母材の竹林

リュウキュウチクを優占とする山林原野である。

c. 石灰岩と非石灰岩の混合母材の竹林

ホテチク、マダケ、ビゼンナリヒラを優占とする山林原野である。

㊪ 耕地群落

本部半島の耕地群落は、地質によって次のタイプに区分できる。

a. 石灰岩質母材の耕地群落

サトウキビ、果樹を優占とする畝耕または山地開発による耕地である。

b. 非石灰岩質母材の耕地群落

パイナップルを優占とする山地開発による耕地である。

(4) 本部半島地域における森林の群落構造を調べることができた。

㊱ 石灰岩質母材における照葉林の最大胸高直径はガジュマルの80cmで、樹高は13mである。

㊲ 石灰岩質母材における照葉樹二次林の最大胸高直径はイスノキの24cmで、樹高は9mである。

㊳ 非石灰岩質母材における照葉樹二次林の最大胸高直径はイタジイの32cmで、樹高14mである。

㊴ 石灰岩質母材における松林の最大胸高直径は32cmで、樹高13mである。

- ㊦ 非石灰岩質母材における松林の最大胸高直径は27cmで、樹高は8mである。
 - ㊧ 石灰岩質母材の照葉林、照葉樹二次林はアカギ、クスノハカエデ、リュウキュウガキ、ハマイヌビワ、ヤブニッケイを主体とする群落である。
 - ㊨ 非石灰岩質母材の照葉樹二次林はイタジイ群落である。
 - ㊩ 各型の林分を構成する樹種のha当り本数、樹高、胸高直径を推測することができた。
- (5) 本部半島地域における極相の発達を推測することができた。
- ㊰ この地域の照葉林は、社寺林のため良く保護され安定している。
 - ㊱ 石灰岩質母材の照葉樹二次林はやや安定しているが、今後の保護が必要である。この母材をもつ森林型は、極度の伐採を行なうとたちまち草原へと移行する可能性がある。
- (6) 本部半島地域における森林の材積を推測することができた。
- ㊲ 石灰岩質母材における照葉林のha当り平均材積は406.938m³で、その主な樹種はクスノハカエデ19.45%、ホルトノキ12.96%、リュウキュウハリギリ12.18%、ハゼノキ7.01%、アカギ6.56%である。
 - ㊳ 石灰岩質母材における照葉樹二次林のha当り平均材積は102.476m³で、その主な樹種はイスノキ18.09%、サンゴジュ13.36%、ヤブニッケイ12.64%、ホルトノキ10.14%である。
 - ㊴ 非石灰岩質母材における照葉樹二次林のha当り平均材積は200.160m³で、その主な樹種はイタジイ63.76%、イジュ19.45%である。
 - ㊵ 石灰岩質母材におけるリュウキュウマツ林のha当り平均材積は113.898m³で、その91.37%がリュウキュウマツである。
 - ㊶ 非石灰岩質母材におけるリュウキュウマツ林のha当り平均材積は73.109m³で、その81.80%がリュウキュウマツである。

考 察

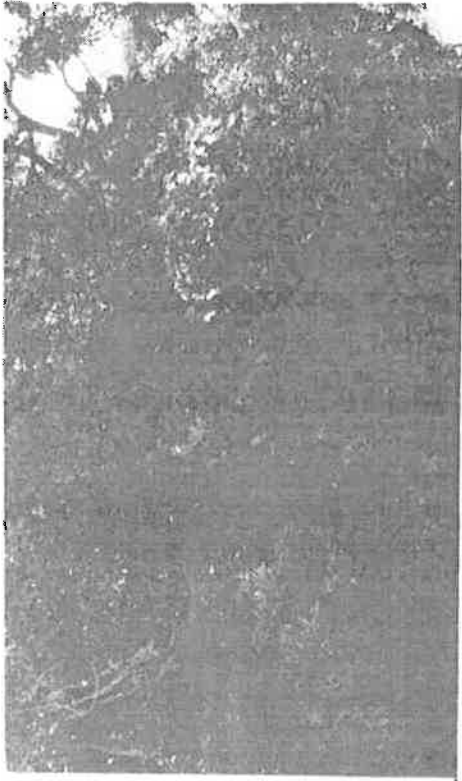
(1) 本部半島地域の母岩を大きく分けると、石灰岩質母材の土壌と非石灰岩質母材の土壌に二分されその植生も母材によって異なるので、今後の保護と植樹計画について考察を加えてみる。

- ① 石灰岩質母材の照葉林約62.5haは幸い御賦、御願所として保護されているので、今後の学術調査林、国土保全林、水資源林としての利用が望ましい。
- ② 海浜林約12.5haは国土保全林および学術調査林、観光資源林として機能が十分発揮できるよう保護管理が望ましい。なお、この種において植樹計画を行なう場合はきびしい気象・土壌条件のもとで実施されるので、塩性および乾性等に強いガジュマル、オオハマボウ、アカテツ、オキナワキョウチクトウ、ハスノハギリ、クロヨナ、アコウ、アダン、ハマビワ等の樹種を選定することが望ましい。
- ③ 石灰岩質母材の照葉樹二次林約1,043.8haは、木質材料生産と国土保全林、清浄な空気の保

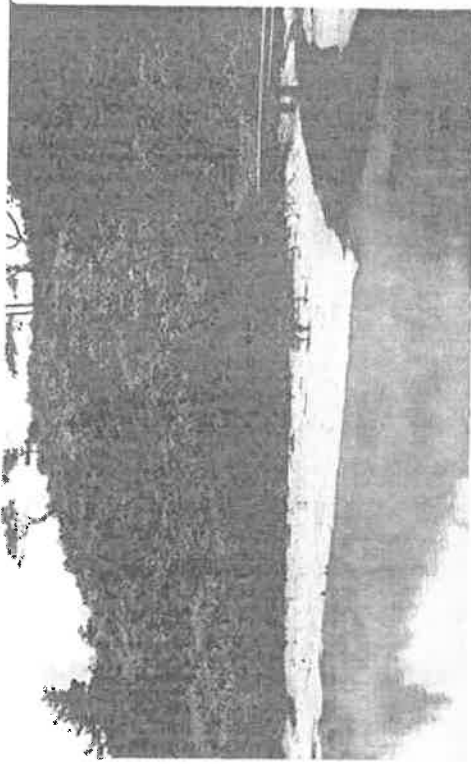
- 持林、水資源林としての機能が十分発揮できるよう保護管理が望ましい。なお、この母材において植樹計画を行なう場合はイヌマキ、イスノキ、ヤブニッケイ、クスノハカエデ、ホルトノキ、シマタゴ、シマトネリコ、タブ、ハマイヌビワ、クログ等樹種を選定することが望ましい。
- ④ 非石灰岩質母材の照葉樹二次林約1,543.8 ha は、石灰岩質母材の照葉樹二次林と同じ機能を十分発揮しつつ、下木は緑化用苗木生産の場としての利用が望ましい。なお、この母材において植樹計画を行なう場合はリュウキュウマツ、イジュ、エゴノキ、タブ、フカノキ等の樹種を選定するのが望ましい。
- ⑤ 石灰岩質母材の松林約468.8ha はリュウキュウマツを主体とするゲッキツ、イスノキ、ヤブニッケイの林である。この松林はきびしい土壌条件下において成林しているので、過度の伐採を行なうことができない。
- ⑥ ギンゴウカン林約118.8ha は、海洋博覧会場として使用されると思われるが、その分布地域は琉球石灰岩の母材であるので、この地域の緑化計画には石灰岩質母材に適する樹種を選定が望ましい。
- ⑦ 以上、本部半島地域の植生について概説したが、すでにこの地域の森林・原野は過度に開発され、現在残された林分を保護・育成し、自然環境の整備をはかるべきである。



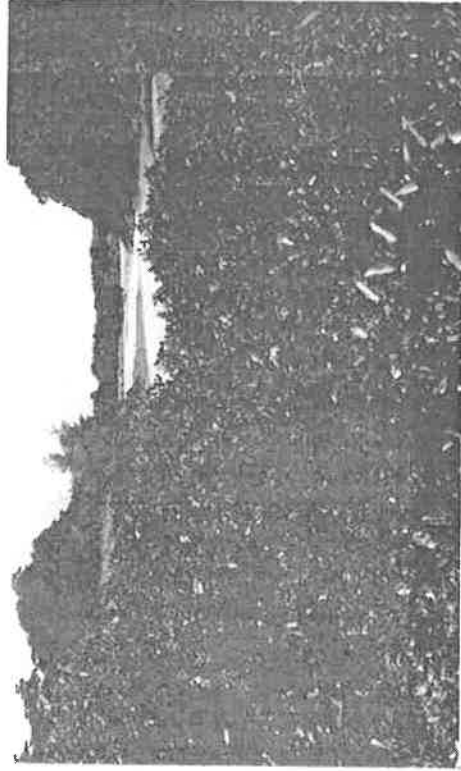
白次岩頂部における照葉林 (今別仁村連夫)



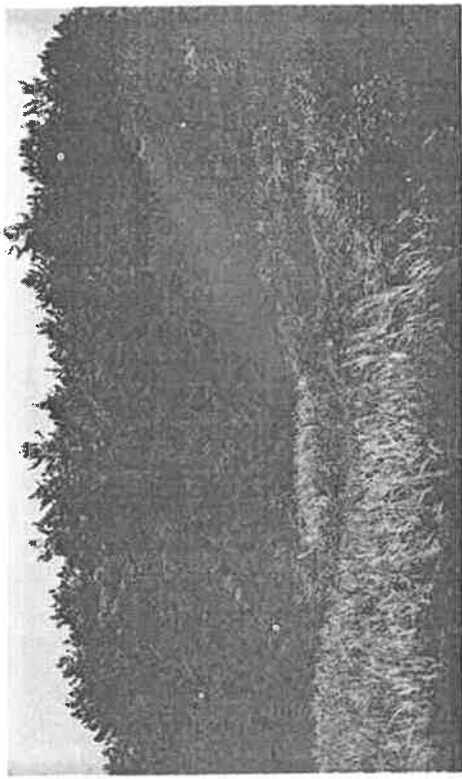
白次岩頂部における照葉林 (今別仁村連夫)



マングローブ林 (今別仁村仲宗根大次郎)



高木層が樹高2.5〜3 m



非石灰岩質母材に群生するリュウキュウマツ (谷部村天冠付地)

- 林内下層の優占樹種はイジュー、ナカハラクロキ等である。
- リュウキュウマツの胸高直径は8.5 cm前後で、樹高が7 m前後である。
- 100 m²当り本数密度は2.5本前後で石灰岩質母材における松林と比較してとても多い。



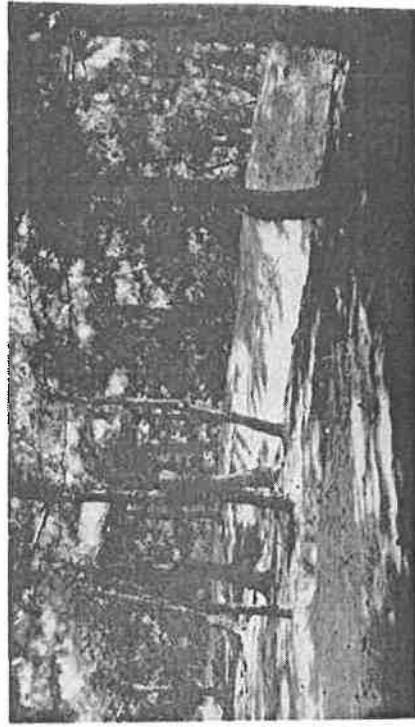
非石灰岩質母材の下層雑生のない裸地に群生するリュウキュウマツ (本館町謝花)

- リュウキュウマツの胸高直径は1.1 cm前後で、樹高9 m前後、100 m²当り本数密度は1.8本前後である。



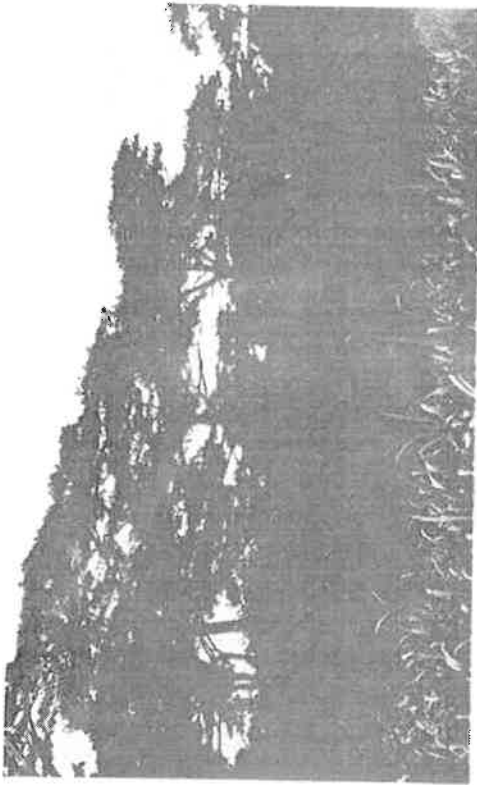
石灰岩質母材に群生するリュウキュウマツ (本館町山川)

- 林内にはノテツ、グッキツが下層群生となる。
- リュウキュウマツの胸高直径は23 cm前後で、樹高が1.0 m前後である。
- 本数密度は少なく100 m²当り8本前後である。

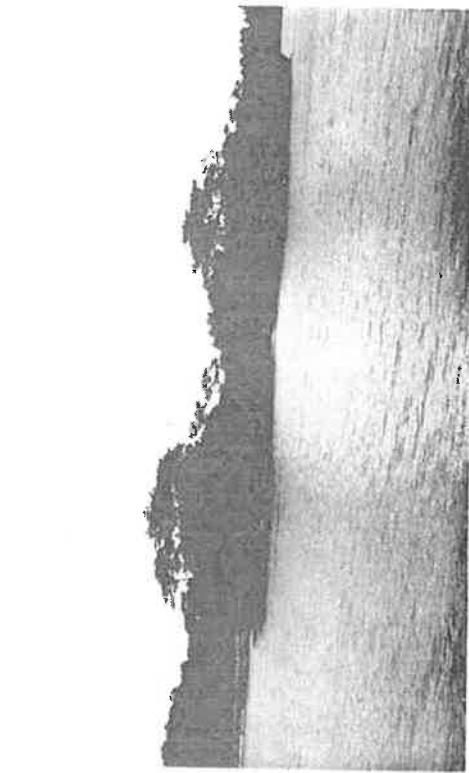
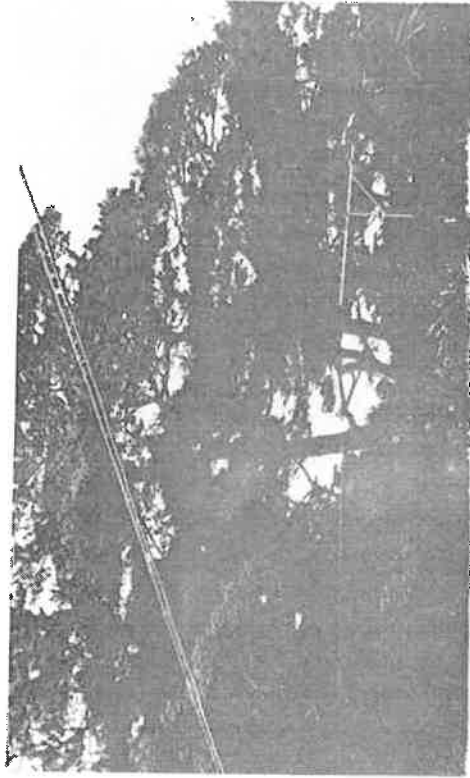


石灰岩質母材の下層雑生のない裸地に群生するリュウキュウマツ (本館町謝花)

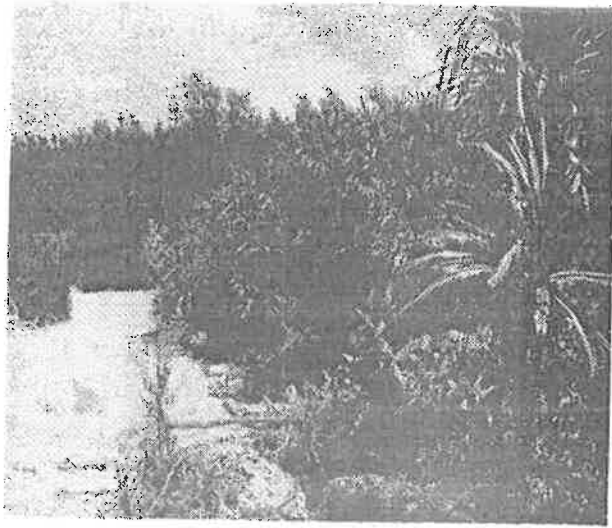
- リュウキュウマツの胸高直径は1.1 cm前後で、樹高9 m前後、100 m²当り本数密度は1.8本前後である。



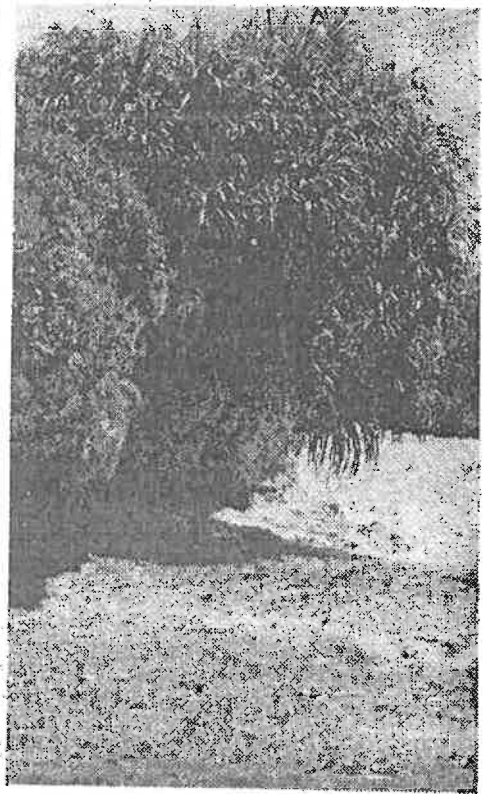
今州に付に現るりユウキウマツの老木（今州に付に現るり）



石炭岩質母材に群生するソテツ（本部町備前）
○ 管内にはハマエソテツ、イヌソテツ、トベラが生育し、サル
カケミカン、ノアサカオ等のソツル社植物がそれらの樹木やソテツにか
らみつく。



海浜地帯に群生するアダン
(今帰仁村 那覇嶺海岸)



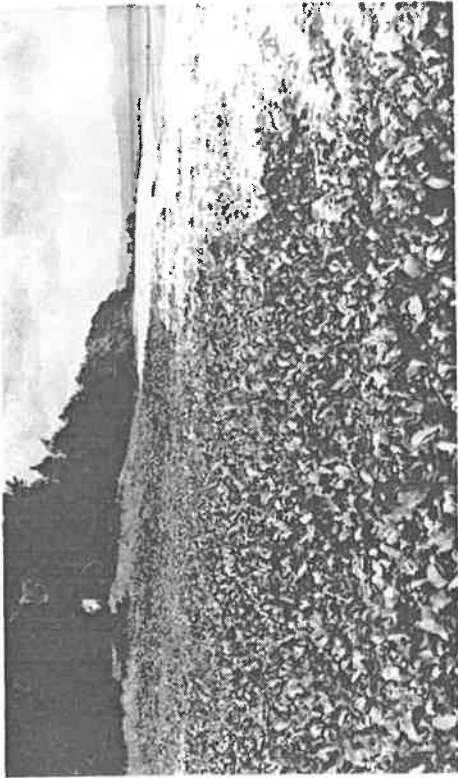
乾性砂地に群生しきびしい立地条件に耐える
ため数多くの気根を出すアダン

(今帰仁村 与那嶺海岸)

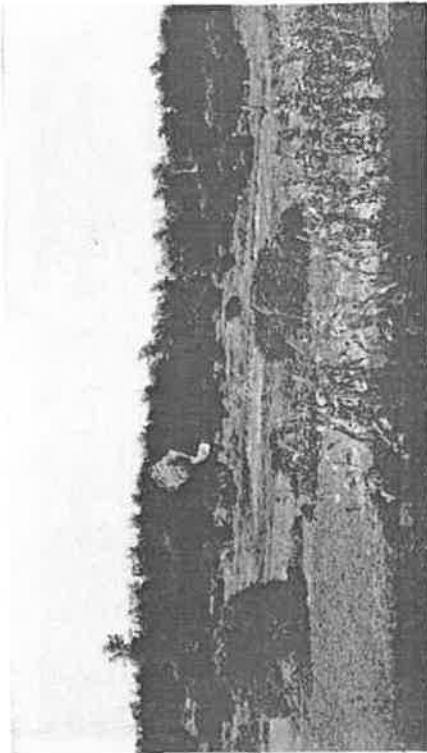




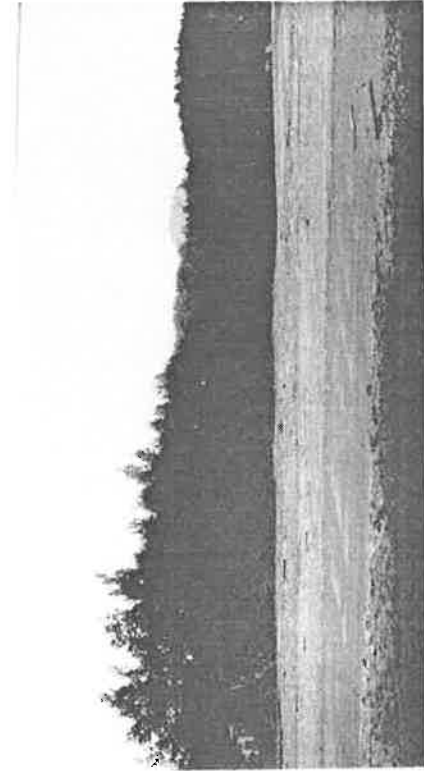
海浜を被覆するツッキイゲ (今帰仁村与那嶺海浜)
 ○ 潮潮線 5〜7 m 地点より群生



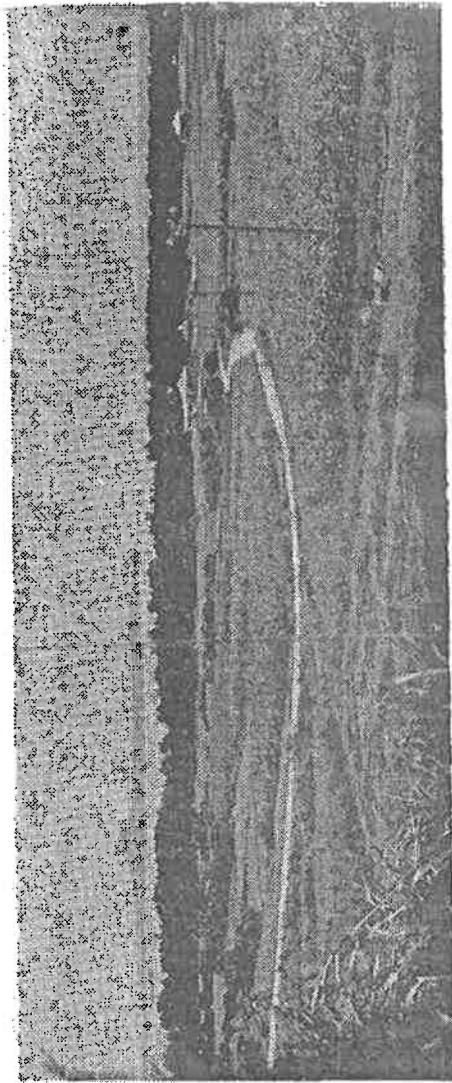
海浜を被覆するグンバイヒルガオ (本部町塩川海浜)
 ○ 潮潮線 5〜7 m 地点より群生



モクマオウクウ林 (本部町端渡)
 ○ 海岸砂地に防風・防霧林として広く分布し下原にはテリハクサトベラ、キンコウカン、アカテツ、アダン、イボタイサイギ等が生育している。



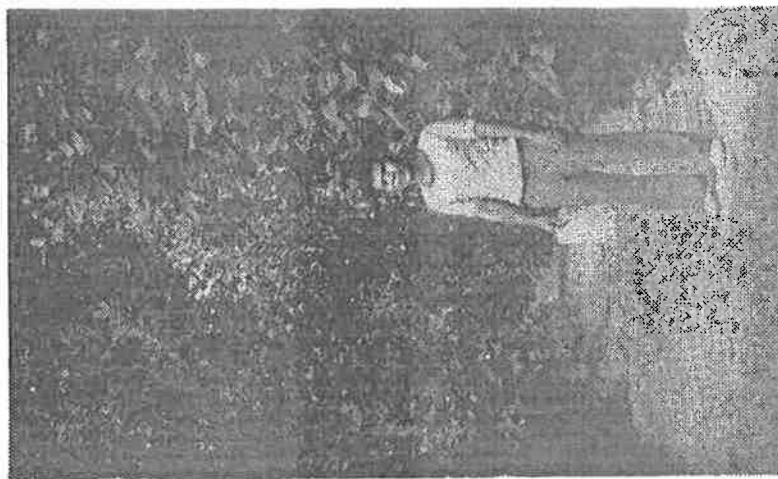
モクマオウクウ林 (恩納村)



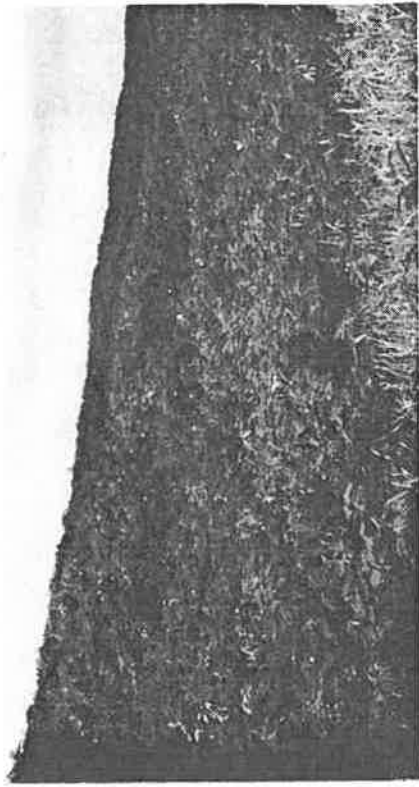
屋敷林を形成するフクギ (本宿町龍瀬)



アコウの幹生花の状況 (今帰仁村廻天)



屋敷林を形成するフクギ (今帰仁村廻天)



石灰岩質母材に群生するギンゴウカン

(本部町山川付近)
○林内ではヤブニッケイ、トベラの雑苗が点々と生育しており、ソテツや他の樹種は全然見当たらない状態である。



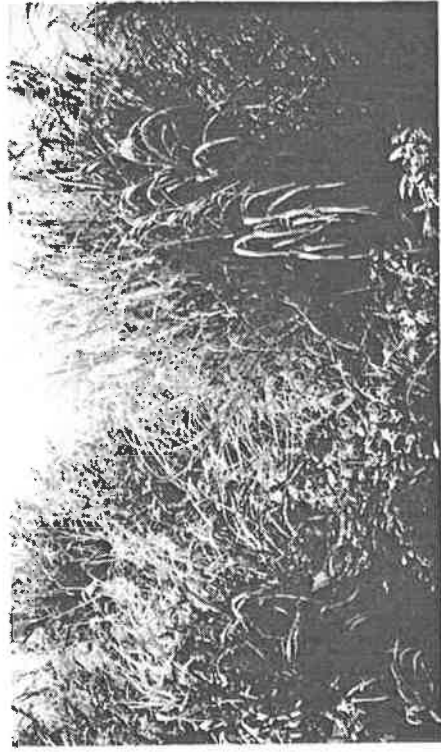
非石灰岩質母材における耕地群落

(今帰仁村天塚より乙羽岳を望む)



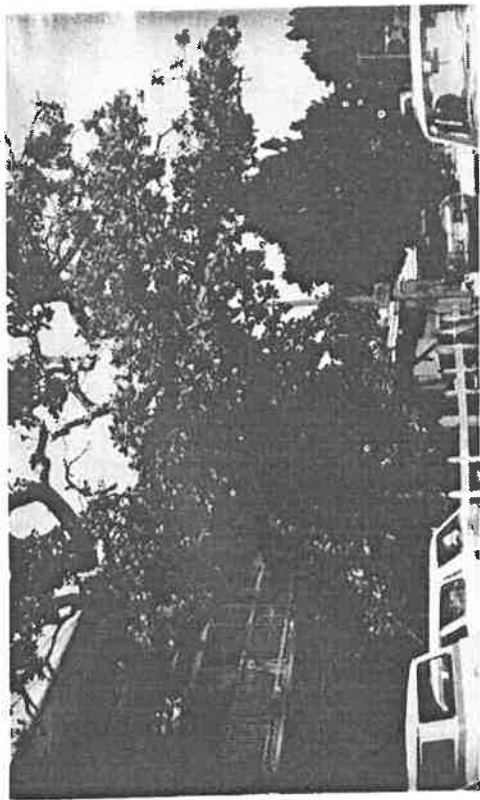
石灰岩質母材における灌木草原林

(本部町塩川)

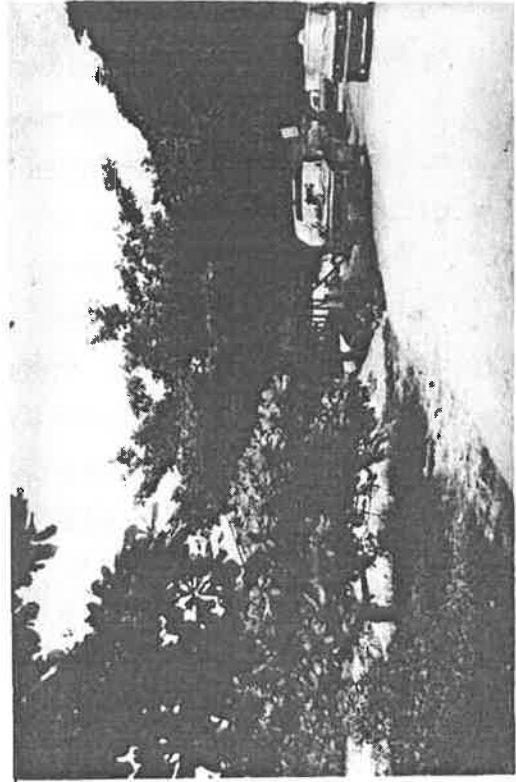


パイロン畑の荒廃地(名護市柳原)

○パイロン跡地の荒廃地にはススキが群生する。



モモタマナの大木 (今帰仁村今泊)



モモタマナの並木 (今帰仁村運天海岸)

参 考 文 献

1. 沖縄県林業試験場研究報告 Ⅵ 15 1972
2. 九州大学八重山群島学術調査報告書 1962
 九州大学八重山群島学術調査隊
3. 西表島の自然植生とその保護に関する調査研究 1970
4. 鈴木 時 夫：生態調査法
5. 蜂 屋 欣 二：森林の生態的見方
6. 古 井 義 次：植物群落の観察
7. 大 山 保 表：リュウキュウマツの造林ならびに施業に関する基礎的研究 1970
8. 初島住彦、天野鉄夫：沖縄植物日録
9. 初 島 住 彦：琉球植物誌
10. 外 間 現 誠：1961、官有林内の天然生林について、琉球林試第 5 号
11. 沖縄県山林会：沖縄県の林業
12. 琉球气象台：1956、台 風
13. 琉球气象台：1958、調査用気候表、石垣島測候所
14. 琉球气象台：1959、気候表、西表測候所
15. 琉球气象台：1960、沖縄の台風資料
16. 琉球气象台：1966、沖縄群島の気候表
17. 琉球気象庁：1966、気象要覧第 109 号

フウ (Liquidambar formosana Hance) の成長量 について (資料)

玉城 功・高江洲 重一
安次富 長敬・仲間 清一

1. は し が き

昭和29年台湾から種子を輸入し、沖縄での造林木としての適否試験として、当年南明治山苗畑で播種管理試験および樹苗養成試験がなされた。その一連の試験として、昭和30年現地植栽(南明治山試験林地内)された。その後19年経過しているが、本林分については調査がおこなわれていない。今調査はその成長経過状況を知るため昭和48年4月に調査したものである。

2. 調 査 方 法

面積0.34haを毎木調査した。

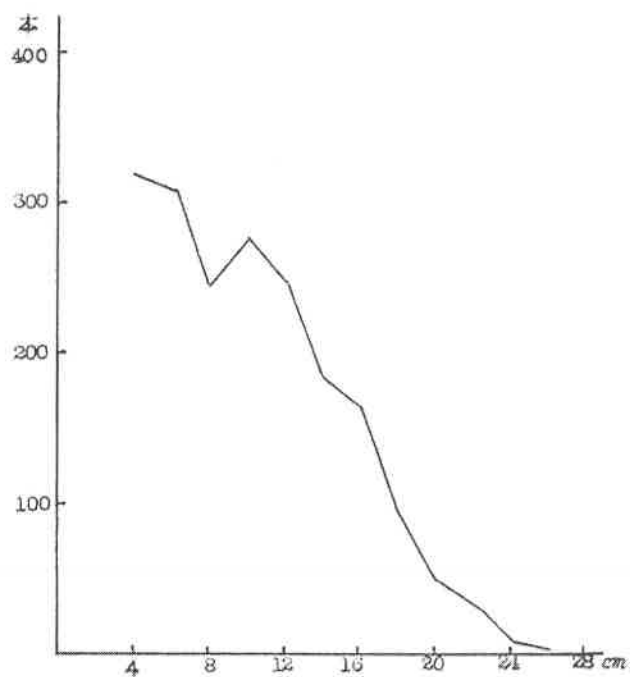
胸高直径は地上1.2mの位置で4cm以上を測定した。

樹高は直径級別の標準木高をもって平均樹高とした。

標準木はUrich II法で3本選定し、0.2、1.2……以上1m毎に円板を採集して樹幹解析をおこなった。

3. 調 査 結 果

- (1) 胸高直径階別ha当り立木本数は 第1図のとおりである。
- (2) 直径級別の平均胸高直径・樹高およびha当り本数・材積は第1表のとおりである。
- (3) 標準木の樹幹解析総括表は第2表～第4表のとおりである。



第1図 胸高直径階別ha当り本数

第1表

直径級	標準木			ha 当り	
	平均胸高直径 (cm)	樹高 (m)	材積 (m³)	本数	材積 (m³)
1	5.2	9.5	0.011202	654	7.32611
2	9.8	15.4	0.057543	652	37.51804
3	16.0	17.7	0.164071	652	106.97429
計				1958	151.81844

第2表 樹幹解析総括表 (標準木1)

年令	樹高成長			直径成長			材積成長			成長率		
	総成長 (m)	定期成長	平均成長	総成長 (cm)	定期成長	平均成長	総成長 (m³)	定期成長	平均成長	総成長 (%)	定期成長	平均成長
5	2.20	2.20	0.44	1.80	1.80	0.36	0.0044	0.0044	0.00009	12.6	12.6	28.7
10	5.20	3.00	0.52	3.45	1.65	0.35	0.00268	0.00224	0.00045	4.8	4.8	17.2
15	8.20	3.00	0.55	4.40	0.95	0.29	0.00671	0.00403	0.00081	3.2	3.2	9.5
19	9.50	1.50	0.50	5.00	0.50	0.26	0.00984	0.00313	0.00078			

第3表

(標準木2)

年令	樹高成長			直径成長			材積成長			成長率		
	総成長 (m)	定期成長	平均成長	総成長 (cm)	定期成長	平均成長	総成長 (m³)	定期成長	平均成長	総成長 (%)	定期成長	平均成長
5	3.30	3.20	0.64	2.30	2.30	0.58	0.00153	0.00133	0.00031	15.8	15.8	30.7
10	6.20	5.00	0.62	5.70	3.80	0.67	0.01168	0.01015	0.00203	5.4	5.4	21.5
15	14.20	6.00	0.66	8.20	2.10	0.59	0.05890	0.02722	0.00544	2.2	2.2	7.0
19	15.40	1.20	0.81	8.60	0.40	0.51	0.05157	0.01267	0.00317			

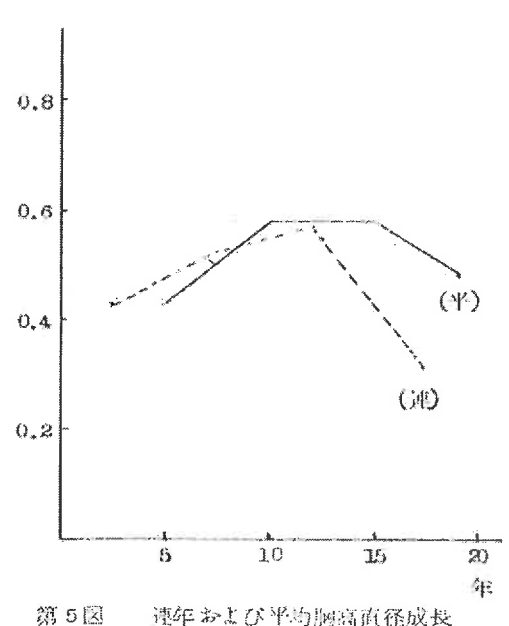
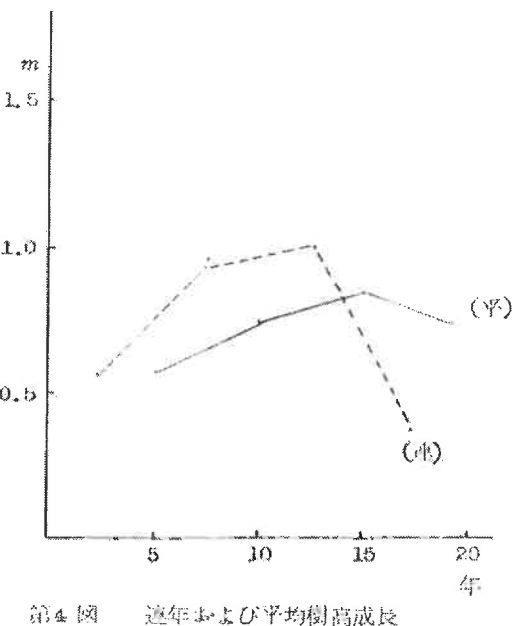
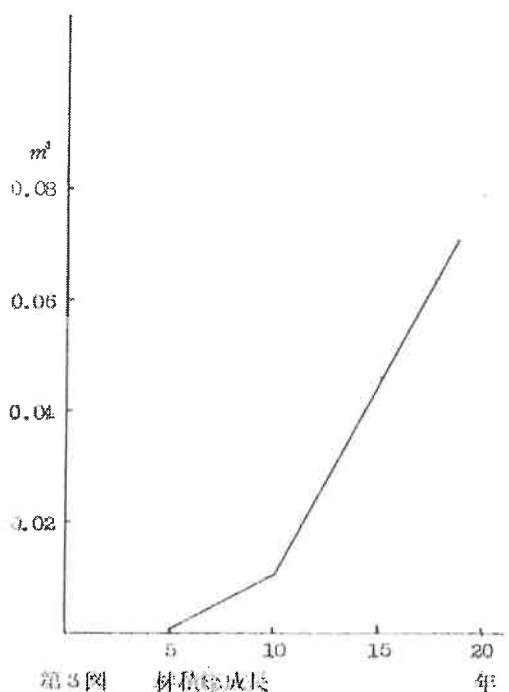
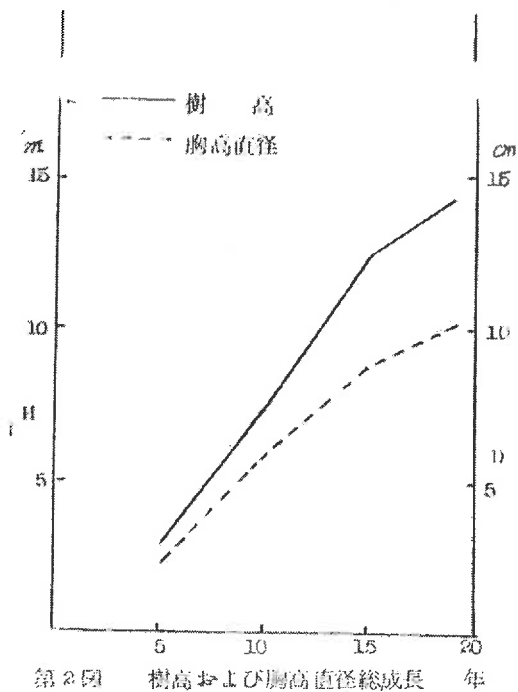
第4表

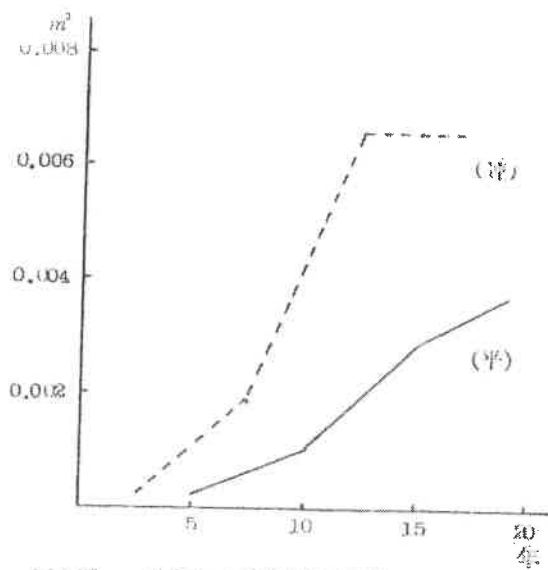
(標準木3)

年令	樹高成長			直径成長			材積成長			成長率		
	総成長 (m)	定期成長	平均成長	総成長 (cm)	定期成長	平均成長	総成長 (m³)	定期成長	平均成長	総成長 (%)	定期成長	平均成長
5	3.20	3.20	0.64	1.80	1.80	0.36	0.00076	0.00076	0.00015	24.4	24.4	36.7
10	9.20	6.00	0.92	7.45	5.65	0.73	0.01735	0.01709	0.00342	11.1	11.1	26.3
15	15.20	6.00	1.01	13.15	5.70	0.88	0.03654	0.03609	0.01374	4.3	4.3	13.4
19	17.70	2.50	0.95	15.80	2.45	0.82	0.15011	0.05357	0.01589			

* 成長率はアレスラー式で算出した。

(4) 樹高・胸高直径・材積総成長および連年・平均成長曲線は第2図～第6図のとおりで、それは標
 本3本を平均したものである。





第6図 連年および平均材積成長

4. ま と め

造林地は小川をはさんだ湿潤な崩積地で、その一部は、スギ造林適地と考えられる場所である。

林分は19年生で、ha当り本数は1,998本、ha当り材積151.8 m³、成長量8.0 m³、成長率5.3%である。

樹高、胸高直径の連年成長量最大の時期は共に12年で、平均成長量最大の時期も共に15年となっている。材積連年成長量最大の時期は12年となっているが、平均成長量はまだ上昇する傾向にある。

現地調査をおこなってみて、土地条件、すなわち谷間と、高低差10m弱の斜面上部との成長差が著しい、谷間の地味の良い場所は成長が良く斜面上部にいくに従って成長が悪い、また、第1図に示すように、胸高直径階別ha当り立木本数は、直径4cmを最頻値として直径が大きくなるに従って本数が少なくなっていて、直径階の範囲も広い、そのようなことから、フウ (Liquidambar formosana Hance) は、土地選択の高い樹種であると思われる。ただし、斜面上部の林分は、土地条件だけでなく隣接木 (他広葉樹) の影響もかなり受けているものと思われる。その調査から、地味良好な場所を選定して撤収すればかなり良好な成長が期待できるものと考えられる。

